

# Kansai Economic Insight Monthly

2023/11/24

Vol.127 October/November

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、豊原法彦(関西学院大学教授)、野村亮輔(APIR 副主任研究員)、郭秋薇(APIR 研究員)、盧昭穎(APIR 研究員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、宮本瑛(調査役/研究員)、新田洋介(調査役/研究員)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 要旨                 | 1     |
| 総括判断及びトレンドとCI, CLI | 2     |
| 生産・労働関連            | 3     |
| 内需関連               | 7     |
| 景況感                | 12    |
| 外需関連               | 14    |
| 中国景気モニター           | 17    |
| 主要月次統計             | 22-23 |
| Release Calendar   | 24    |

## 要 旨

### 景気は足下局面変化、先行きは悪化の兆し： 長引く消費者物価高と対中貿易停滞が景気下押しリスク

- ✓ 関西の景気は、足下は下方への局面変化、先行きは悪化の兆しがみられる。足下、生産は2カ月連続の増産だが、緩やかな回復にとどまっている。雇用環境は失業率が3カ月ぶりに改善したが、求人倍率は低下傾向が続く。消費は在阪球団優勝セールの影響もあり百貨店は好調だが、景況感は物価の高止まりもあり悪化。貿易収支は黒字だが、輸出入ともに減速が続く。先行きについては、消費者物価の高止まりと対中貿易停滞から、悪化の兆しがみられる。
- ✓ 9月の生産は2カ月連続の前月比上昇。電子部品・デバイス、化学(除. 医薬品)やプラスチック製品等が増産した。7-9月期は2四半期連続で前期比上昇だが、生産全体は緩やかな回復にとどまっている。
- ✓ 9月の失業者数は前月から横ばい。一方、労働力人口と就業者数はいずれも増加に転じた。7-9月期は失業率が悪化したが、就業者数と労働力人口は減少せず、コロナ禍前の水準を上回っている。雇用情勢は改善を維持している。ただし原材料価格の高騰による影響もあり、足下労働需要の弱さが続く。
- ✓ 8月の現金給与総額は21カ月連続の前年比増加となり、伸びは3カ月連続で縮小した。一方、実質ベースでは減少が続き、減少幅は前月より拡大した。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は24カ月連続の前年比増加となった。うち、百貨店は衣料品と身の回り品などが好調で、またインバウンド需要と在阪球団の優勝セールも寄与し、19カ月連続のプラス。スーパーも12カ月連続で拡大した。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前月比増加。7-9月期を前期と比較すれば2四半期ぶりに増加したが、小幅にとどまった。
- ✓ 9月の建設工事は前年比増加だが、民間工事の減速が影響し前月からわずかな加速にとどまった。また、10月の公共工事請負金額は、前年の大幅増加が影響し2カ月ぶりの減少。
- ✓ 10月の景気ウォッチャー現状判断は、気温高や物価の高止まりが影響し2カ月連続で前月比悪化。先行き判断は、円安進行や原材料価格高騰の影響もあり、3カ月連続の悪化となった。
- ✓ 10月の関西の輸出は6カ月連続の減少。対中や対米など、輸出の停滞が顕著であった。また、輸入は7カ月連続の減少で6カ月連続の2桁減となった。結果、貿易収支は9カ月連続の黒字となった。
- ✓ 10月の関空経由の外国人入国者数は65.6万人と単月で初めてコロナ禍前の水準を上回った。
- ✓ 10月の中国経済は、雇用回復の遅れと不動産市場の不況は依然として改善が見られない。一方、生産と消費は緩やかに持ち直しているものの、ゼロコロナ政策が続いていた前年同月に対する反動による影響もあると思われる。10-12月期の経済成長率は前期より加速するだろう。

## 【今月の総括判断】

関西の景気は、**足下は下方への局面変化、先行きは悪化の兆し**がみられる。

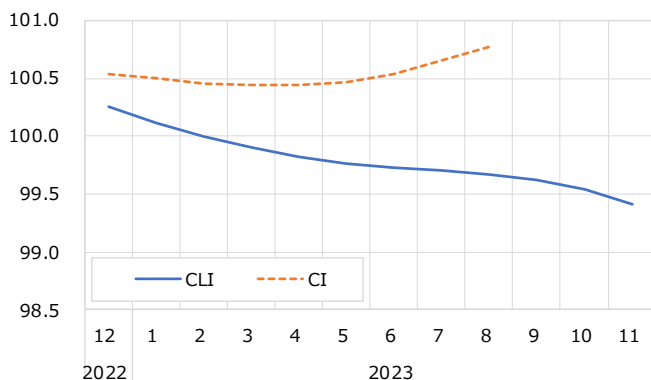
足下、**生産**は2カ月連続の増産だが、緩やかな回復にとどまっている。**雇用環境**は失業率が3カ月ぶりに改善したものの、求人倍率は低下傾向が続く。**消費**は在阪球団の優勝セールもあり百貨店は好調を維持しているが、**景況感**は物価の高止まりが影響し悪化が続く。**貿易収支**は9カ月連続の黒字だが、輸入は2桁の減少が続く、輸出は前月から減少幅が拡大した。**中国経済**は、雇用回復の遅れと不動産市場の不況は依然として改善が見られないが、生産と消費はともに緩やかに持ち直している。先行きについては、長引く消費者物価高と対中貿易の停滞から、悪化の兆しがみられる。

## 【関西経済のトレンド及び判断基準】

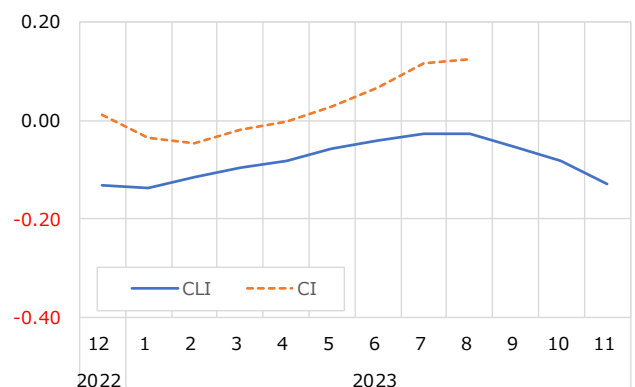
| 各項目       | 2022年 |     | 2023年 |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 判断基準系列                                  | 上向き           | 下向き           |
|-----------|-------|-----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----------------------------------------|---------------|---------------|
|           | 11月   | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |                                         |               |               |
| 生産        | ↘     | →   | ↘     | ↗  | ↗  | ↘  | ↘  | ↗  | ↘  | ↗  | ↗  | NA  | 近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値) 前月比     | +0.5%以上       | -0.5%未満       |
| 雇用        | ↗     | ↗   | ↘     | ↘  | ↘  | ↗  | →  | ↘  | ↘  | ↗  | →  | NA  | 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値) 前月差        | 0.01ポイント以上の改善 | 0.01ポイント以上の悪化 |
| 消費        | ↗     | ↗   | ↗     | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | NA  | 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース) 前年同月比         | 1%以上増加        | 1%以上悪化        |
| 住宅        | →     | ↗   | ↗     | ↗  | →  | ↘  | ↗  | ↘  | ↘  | ↘  | →  | NA  | 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数 前年同月比             | 5%以上増加        | 5%以上悪化        |
| 公共工事      | →     | ↘   | ↗     | ↗  | →  | ↘  | ↗  | ↗  | ↗  | →  | ↗  | ↘   | 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額 前年同月比 | 5%以上増加        | 5%以上悪化        |
| 景況感       | →     | ↗   | →     | ↗  | ↗  | ↗  | →  | ↘  | →  | →  | ↘  | ↘   | 内閣府『景気ウォッチャー調査』近畿現状判断(方向性)DI 前月差        | 1ポイント以上の改善    | 1ポイント以上の悪化    |
| 消費者センチメント | ↘     | ↗   | →     | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↘  | →  | ↘  | ↘  | ↘   | 内閣府『消費動向調査』の消費者態度指数(季節調整値) 前月差          | 1ポイント以上の改善    | 1ポイント以上の悪化    |
| 貿易        | ↘     | ↘   | ↘     | ↗  | →  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗   | 大阪税関『貿易統計』近畿圏貿易収支(入出超額) 前年同月差           | 500億円以上の改善    | 500億円以上の悪化    |
| 中国        | ↘     | ↘   | →     | →  | ↗  | →  | →  | →  | →  | ↗  | ↗  | ↗   | 各指標を用いて総合的に判断                           | -             | -             |

## 【関西の景気動向指数(CI 一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2022年12月～23年11月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2022年12月～23年11月)



(注) 指数は2013年1月～23年8月までのデータで計算されている。

## 【生産・労働関連】

### (1) 生産動向

関西 9 月の生産は 2 カ月連続の増産だが、緩やかな回復にとどまっている。

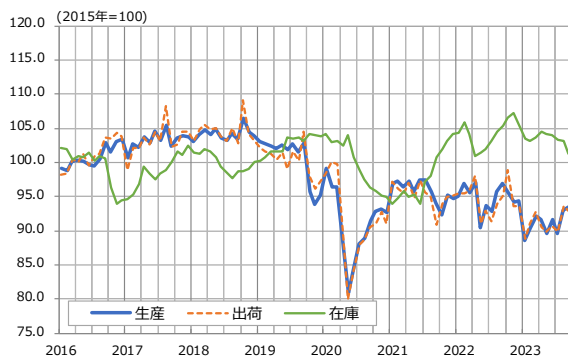
#### <関西>

関西 9 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 93.5 で、前月比+0.5%上昇し、2 カ月連続の増産となった(前月: 同+3.8%)。近畿経済産業局は生産の基調判断を「一進一退」と前月から据え置いた。生産を業種別にみれば、電子部品・デバイス、化学(除. 医薬品)やプラスチック製品等が増産となった一方、汎用・業務用機械、輸送用機械、電気・情報通信機械等が減産となった。

7-9 月期では前期比+1.2%と 2 四半期連続の上昇だが、前期(同+0.6%)に引き続き緩やかな回復にとどまっている。

9 月の出荷は 92.9、前月比-0.7%と 2 カ月ぶりの低下。また、在庫は 101.3 で同-1.7%と 5 カ月連続で低下した(前月: 出荷: 同+4.2%、在庫: 同-0.3%)。

関西の鉱工業生産動向の推移 (2016 年 1 月～23 年 9 月)



関西業種別生産の動向(2023 年 9 月)

|    | 業種         | 前月比: %     |
|----|------------|------------|
| 増産 | 電子部品・デバイス  | +9.1 4カ月連続 |
|    | 化学(除. 医薬品) | +4.3 2カ月連続 |
|    | プラスチック製品   | +5.6 3カ月ぶり |
| 減産 | 汎用・業務用機械   | -5.6 2カ月ぶり |
|    | 輸送用機械      | -5.1 3カ月ぶり |
|    | 電気・情報通信機械  | -2.0 2カ月連続 |

(注) 福井県を含む。増産、減産は寄与度順に表記している。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

#### <全国>

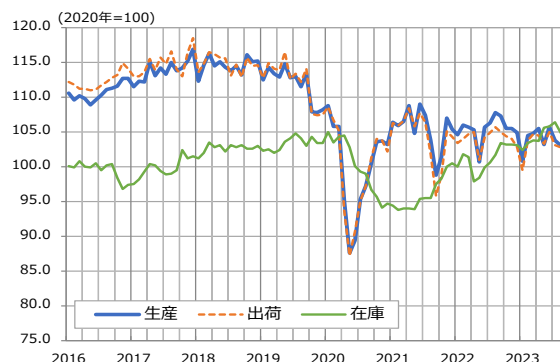
全国 9 月の鉱工業指数(確報: 季節調整済、2020 年=100)を見ると、生産は 103.6 であった。前月比+0.5%上昇し、3 カ月ぶりの増産となった(前月: 同-0.7%)。業種別にみれば、自動車、汎用・業務用機械や化学(除. 無機・有機化学)等が増産した一方、生産用機械、電気・情報通信機械や輸送機械(除. 自動車)等が減産となった。経済産業省は 9 月生産(速報ベース)の基調判断を「一進一退で推移」と前月から据え置いた。

7-9 月期では前期比-1.2%と 2 四半期ぶりに低下した(4-6 月期: 同+1.4%)。

9 月の出荷は 103.4 で前月比+0.6%と 3 カ月ぶりの上昇。一方、在庫は 103.6 で同-1.3%と 2 カ月連続で低下した。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、10 月は前月比+3.9%(補正値: 同+1.1%)と増産が、11 月は同-2.8%と減産が予測されている。仮に 10 月、11 月の予測値が実現すれば、10-11 月平均は 7-9 月期平均比+2.5%のプラスとなる。ただし、実際の生産は予測値から下振れることもあるため、生産の回復ペースは緩慢となる可能性が高い。

全国の鉱工業指数の推移(2016 年 1 月～23 年 9 月)



全国業種別生産の動向(2023 年 9 月)

|    | 業種             | 前月比: %     |
|----|----------------|------------|
| 増産 | 自動車            | +6.0 2カ月ぶり |
|    | 汎用・業務用機械       | +2.5 3カ月ぶり |
|    | 化学(除. 無機・有機化学) | +2.2 2カ月ぶり |
| 減産 | 生産用機械          | -3.4 3カ月連続 |
|    | 電気・情報通信機械      | -2.8 2カ月ぶり |
|    | 輸送機械(除. 自動車)   | -5.6 2カ月連続 |

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

## (2) 完全失業者数と就業者数

### <関西>

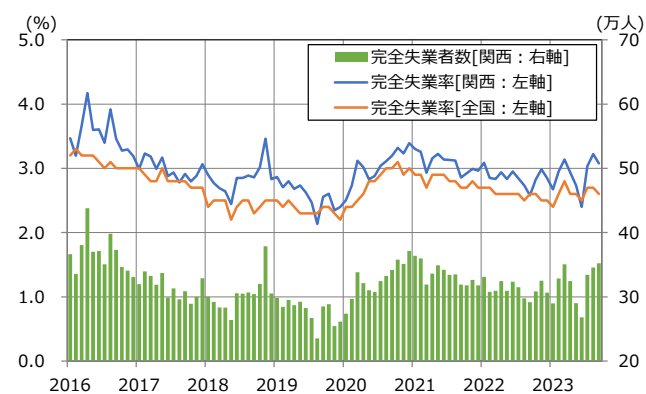
関西9月の完全失業率は3.1%と前月差-0.1%ポイント低下し、3カ月ぶりに改善した(以下の関西の数値はAPIRによる季節調整値)。完全失業者数は35万人で同+1万人と小幅増加した。就業者数は1,073万人で同+10万人、労働力人口は1,107万人で同+8万人、いずれも2カ月ぶりに増加した。非労働力人口は686万人で同-9万人と2カ月ぶりに減少した。

失業者数が前月から横ばいとなった一方、労働力人口と就業者数はいずれも増加に転じた。また、15歳以上人口に占める就業者の割合を示す就業率は59.9%と前月より0.6%ポイント上昇した。雇用情勢は持ち直している。

四半期平均では、7-9月期の完全失業率は3.1%と前期差+0.4%ポイント上昇し、2四半期ぶりに悪化した。完全失業者数は34万人で同+5万人と2四半期ぶりの増加。就業者数は1,070万人と前期から横ばいとなった。労働力人口は1,104万人で同+3万人と2四半期連続で増加した。

7-9月期は前期に比して失業率が悪化した。引き続き就業者数と労働力人口は増加した。また、コロナ禍前の水準(2019年10-12月期:就業者数1,068万人、労働力人口1,095万人)を上回っている。また、就業率は59.7%で前期より0.1%上昇した。雇用情勢は緩やかな改善を維持している。

完全失業率の推移(2016年1月~23年9月)



(出所) 総務省「労働力調査」

### <全国>

全国9月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.6%と前月差-0.1%ポイント低下し、3カ月ぶりに改善した。完全失業者数は177万人で同-8万人と3カ月ぶりに減少した。また、就業者数は6,756万人で同+6万人と2カ月連続で増加した。労働力人口は6,931万人で同-3万人と4カ月ぶりに、非労働力人口は4,075万人で同-10万人と4カ月連続で、いずれも減少した。

失業率の小幅な改善に加えて、就業者数が増加し、非労働力人口の減少が続いている。また、就業率が61.4%と前月より0.1%ポイント上昇した。

四半期平均では、7-9月期の完全失業率は2.7%と前期差+0.1%ポイント上昇し、2四半期ぶりに悪化した。完全失業者数は182万人で同+5万人と2四半期ぶりの増加。就業者数は6,750万人で同+5万人、労働力人口は6,931万人で同+9万人と、それぞれ3四半期連続で増加した。就業率は61.3%と前期より0.1%ポイント上昇した。

総じて、7-9月期の失業率は小幅悪化であったが、雇用情勢は緩やかな改善を維持している。ただし、関西と比べて、就業者数と労働力人口は依然コロナ禍前の水準(2019年10-12月期:就業者数6,782万人、労働力人口6,942万人)を下回っている。

## (3) 求人倍率

### <関西>

関西9月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.19倍で前月から横ばいとなった。有効求人数は前月比-0.9%と2カ月ぶりに、有効求職者数は同-0.5%と2カ月連続で、いずれも減少した。両者の変化幅に大差がないため、倍率は変わらなかった。

府県別で見ると、京都府と兵庫県では有効求人倍率が前月より上昇した。その他の府県では前月より低下し、特に奈良県では低下幅が大きい。



四半期ベースでみると、関西 7-9 月期の有効求人倍率は 1.19 倍で前期差-0.02 ポイントと 3 四半期連続の悪化。有効求人数が 3 四半期連続で減少し(前期比-0.4%)、有効求職者数が 3 四半期連続で増加した(同+0.9%)ためである。

全国と関西の有効求人倍率の比較

|     | 全国   | 関西     | 滋賀県    | 京都府  | 大阪府    | 兵庫県  | 奈良県    | 和歌山県   |
|-----|------|--------|--------|------|--------|------|--------|--------|
| 8月  | 1.29 | 1.19   | 1.09   | 1.22 | 1.31   | 0.99 | 1.19   | 1.13   |
| 9月  | 1.29 | 1.19   | 1.08   | 1.24 | 1.29   | 1.01 | 1.14   | 1.11   |
| 前期差 | 0.00 | ▲ 0.01 | ▲ 0.01 | 0.02 | ▲ 0.02 | 0.02 | ▲ 0.05 | ▲ 0.02 |

|      |        |        |        |      |        |        |      |        |
|------|--------|--------|--------|------|--------|--------|------|--------|
| 22Q4 | 1.35   | 1.22   | 1.19   | 1.25 | 1.30   | 1.07   | 1.24 | 1.11   |
| 23Q1 | 1.34   | 1.21   | 1.16   | 1.24 | 1.30   | 1.03   | 1.22 | 1.18   |
| 23Q2 | 1.31   | 1.20   | 1.11   | 1.22 | 1.32   | 1.01   | 1.12 | 1.15   |
| 23Q3 | 1.29   | 1.19   | 1.08   | 1.22 | 1.30   | 1.00   | 1.16 | 1.11   |
| 前期差  | ▲ 0.02 | ▲ 0.02 | ▲ 0.03 | 0.00 | ▲ 0.02 | ▲ 0.01 | 0.04 | ▲ 0.04 |

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

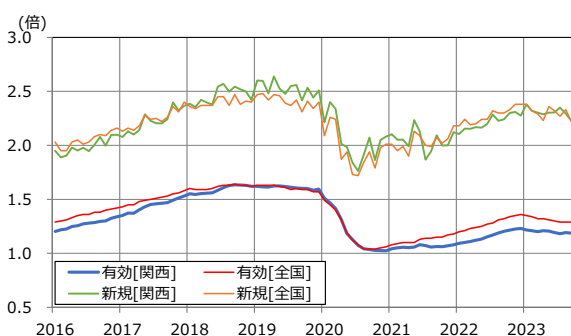
新規求人倍率を見ると、関西 9 月は 2.23 倍で前月差-0.07 ポイントと 2 カ月連続の低下。新規求人数は前月比-5.8%と 2 カ月連続で、新規求職者数は同-2.9%と 3 カ月ぶりに、いずれも減少した。前者の減少幅が後者のそれを上回ったため、倍率は低下した。

四半期ベースでみると、7-9 月期は 2.29 倍で前期差-0.01 ポイントと 2 四半期連続で悪化した。

9 月の新規求人数を産業別にみれば(原数値)、生活関連サービス業・娯楽業(前年同月比+4.3%)、宿泊業・飲食サービス業(同+1.3%)と教育・学習支援業(同+1.2%)を除き、すべてマイナスとなった。

総じて、7-9 月期の有効求人数と新規求人数はいずれも 3 四半期連続で前期比減少となっている。足下労働需要の動きは低調である。宿泊業・飲食サービス業を中心に対面型サービス業では労働需要が高まっているが、製造業や建設業では原材料費や燃料費の高騰による影響もあり弱さが続く。

求人倍率(受理地別)の推移(2016 年 1 月~23 年 9 月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

## <全国>

全国 9 月の有効求人倍率(季節調整値)は 1.29 倍で前月から横ばいとなった。新規求人倍率は 2.22 倍で同-0.11 ポイントと 2 カ月ぶりに低下した。新規求人数の減少(前月比-5.7%)が倍率を押し下げた(新規求職者数: 同-1.0%)。

四半期ベースでみると、7-9 月期の有効求人倍率は 1.29 倍となり前期差-0.02 ポイント低下した。3 四半期連続の悪化。新規求人倍率は 2.28 倍で同-0.02 ポイント低下し、3 四半期連続の悪化となった。いずれも求人数が減少したと同時に求職者数が増加したため、倍率が低下した。

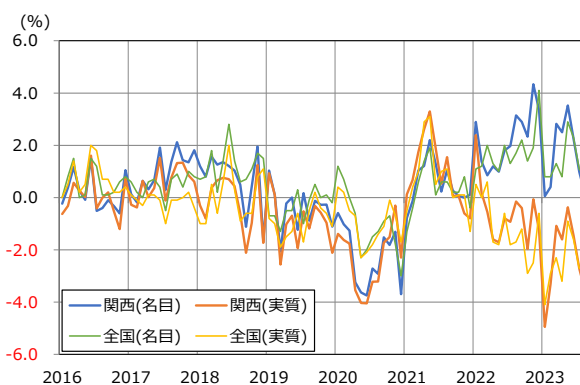
関西と同様に、全国では足下労働需要の弱さが続く。23 年に入ってから有効求人倍率と新規求人倍率の低下傾向が目立つ。

## (4) 現金給与総額

## <関西>

関西 2 府 4 県の 8 月の現金給与総額(APIR 推計)は 27 万 1,762 円で前年同月比+0.1%と 21 カ月連続の増加となった。伸びは 3 カ月連続で縮小した(前月: 同+1.0%)。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2016 年 1 月~23 年 8 月)



(注) 関西は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2022 年平均)で加重平均。また、実質賃金は現金給与総額を「持家の帰属家賃を除く消費者物価指数」で除して計算している。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

なお、現金給与総額の動向を府県別でみると、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県で減少したが、兵庫県と和歌山県で増加した。

全国と関西の現金給与総額の前年同月比(%)

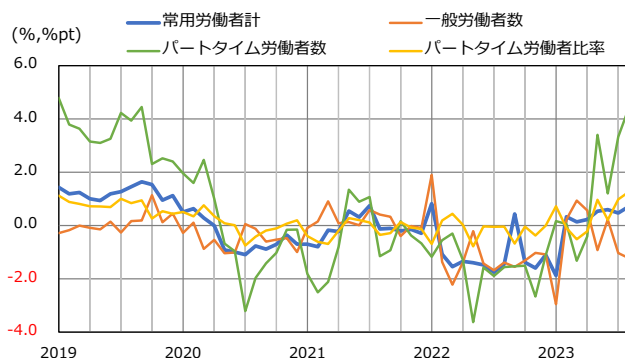
|     | 全国          | 関西          | 滋賀県        | 京都府        | 大阪府         | 兵庫県         | 奈良県        | 和歌山県       |
|-----|-------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 7月  | + 1.1       | + 1.0       | - 1.6      | - 0.2      | + 0.1       | + 4.3       | + 1.5      | + 1.0      |
| 8月  | + 0.8       | + 0.1       | - 3.3      | - 2.7      | - 0.2       | + 3.8       | - 4.4      | + 3.6      |
| 前年比 | 20カ月<br>連続増 | 21カ月<br>連続増 | 2カ月<br>連続減 | 2カ月<br>連続減 | 17カ月<br>ぶり減 | 14カ月<br>連続増 | 2カ月<br>ぶり減 | 2カ月<br>連続増 |

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

また、関西 2 府 4 県の物価変動の影響を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は、前年同月比-3.6%と 18 カ月連続で減少した。名目賃金の伸びが前月より縮小したため、減少幅は前月(同-2.7%)より拡大した。

なお、8 月の関西 2 府 4 県の常用労働者数は前年同月比 +0.7%と 7 カ月連続の増加となった。うち、一般労働者数は同-1.2%と 2 カ月連続で減少し、パートタイム労働者数は同+4.4%と 4 カ月連続で増加した。なお、パートタイム労働者比率は 35.58%で前年同月から+1.25%ポイントと 4 カ月連続で上昇した。

関西の常用労働者の動態(前年同月比: 2019 年 1 月~23 年 8 月)



(出所) 関西 2 府 4 県の自治体の公表資料より作成

## <全国>

全国 9 月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比+1.2%と 21 カ月連続の増加となり、伸びは前月から拡大した。所定内給与は同+1.5%と 23 カ月連続の増加。所定外給与は同+0.7%と 2 カ月連続の増加。特別に支払われた給与は同-6.0%と 2 カ月連続の減少となった。また、現金給与総額を消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)で除した実質現金給与総額(実質賃金)は同-2.4%と 18 カ月連続で減少し、下落幅は前月(同-2.8%)より小幅縮小した。

日本労働組合総連合会(連合)は、10 月 19 日に 2024 年の

春闘で「5%以上」の賃上げを要求すると発表した。厚生労働省が公表(8 月 4 日)した民間主要企業春季賃上げ要求・妥結状況によれば 23 年の春闘で賃上げ率は 3.60%と 30 年ぶりの高水準となったが、物価上昇に追いつかず、実質賃金のマイナスが続く。連合は次年の春闘に 23 年の「5%程度」より高い目標を掲げたが、高水準の賃上げが実現するかの見通しがまだ立たない。雇用の 7 割程度を占める中小企業が取引先に適正な価格転嫁を行い、賃上げの原資を得られるかにかかっている。

## 【内需関連】

### (1) 大型小売店販売額

#### <関西>

関西 9 月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベース)は3,146 億円で前年同月比+9.3%と 24 カ月連続の増加となった(前月:同+9.2%)。関西は百貨店の好調で、大型小売店販売額は全国より高い伸び率を示した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2016 年 1 月~23 年 9 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

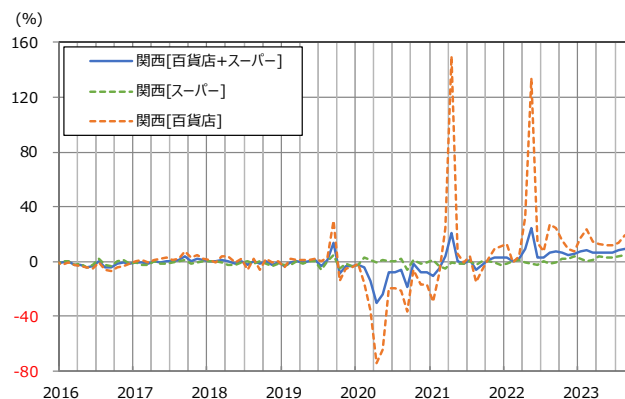
大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比+20.5%と 19 カ月連続のプラス(前月:同+19.1%)。商品別にみれば、衣料品(同+22.5%、19 カ月連続)、身の回り品(同+41.1%、24 カ月連続)などを中心にすべての商品が前年を上回った。高額品の好調に加え、外出機会の増加により衣料品と身の回り品などが高い伸びを示した。また、在阪球団の優勝セールなどの活況が全体の売上を押し上げた。さらに、円安効果の影響もあり、インバウンドは好調だった。日本銀行大阪支店によると、百貨店免税売上高指数(2013 年 4 月=100)は1,547.3 と過去最高水準となった。コロナ前の 2019 年同月比+37.2%と、コロナ前の水準を 4 カ月連続で上回った。

スーパーは前年同月比+2.9%と 12 カ月連続の上昇だが、伸びは前月(同+4.3%)から縮小した。商品別にみると、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品(7 カ月連続)、その他の商品(7 カ月連続)などは前年を上回った。主力の飲食料品

の価格上昇の影響もあり、売上額は増加した。

7-9 月期の大型小売店販売額は前年同期比+8.7%と 8 四半期連続で増加した(4-6 月期:同+6.4%)。

業態別の推移(前年同月比:2016 年 1 月~23 年 9 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

#### <全国>

全国 9 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 7,084 億円で、前年同月比+4.8%と 24 カ月連続の増加となった(前月:同+6.5%)。うち、百貨店は同+8.1%(前月:同+10.9%)と 19 カ月連続、スーパーは同+3.6%(前月:同+5.1%)と 13 カ月連続で、それぞれ増加した。7-9 月期の大型小売店販売額は前年同期比+5.7%と 8 四半期連続で増加した(4-6 月期:同+4.4%)。

小売業販売額(季節調整済指数)は、前月比-0.1%と 3 カ月ぶりに下落した(前月:同+0.2%)。また、前月比の 3 カ月後方移動平均は+0.7%となった。経済産業省は小売業の基調判断を「上昇傾向にある」と据え置いた。

### (2) 消費者物価指数

#### <関西>

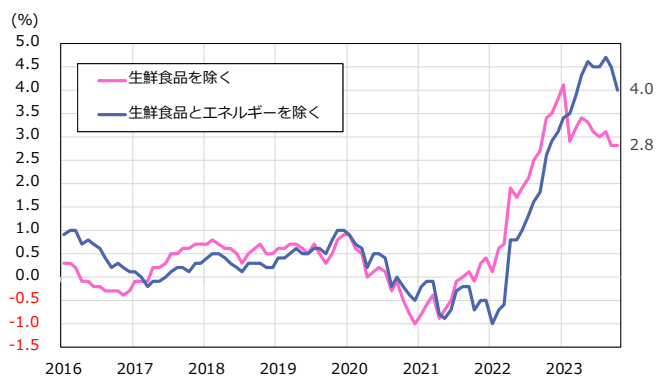
関西 10 月の消費者物価総合指数(2020 年平均=100)は 106.7 で、前年同月比+3.2%と 24 カ月連続の上昇となった(前月:同+3.0%)。また、生鮮食品を除くコア指数は 106.0 で同+2.8%と 24 カ月連続の上昇(前月:同+2.8%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は 106.0 で同

+4.0%と19カ月連続で上昇した(前月：同+4.5%)。エネルギーと生鮮食品を除けば4%以上のインフレ率が7カ月連続で続いている。

総合指数の主な項目をみると、エネルギーは同-11.5%と9カ月連続で下落し、前月(同-16.7%)より下落率が縮小した。寄与度は-0.94%ポイント(前月：-1.38%ポイント)。うち、電気代は同-19.5%と9カ月連続で下落した(前月：同-29.0%)。寄与度は-0.75%ポイント(前月：-1.10%ポイント)。ガス代は同-11.6%と5カ月連続の下落となった(前月：同-16.9%)。寄与度は-0.21%ポイント(前月：-0.31%ポイント)。

一方、生鮮食品を除く食料は前年同月比+7.6%と28カ月連続の上昇(前月：同+9.1%)。寄与度は+1.75%ポイントとなった(前月：+2.10%ポイント)。家庭用耐久財は同+2.1%と20カ月連続の上昇(前月：同+0.2%)。寄与度は+0.03%ポイントとなった(前月：+0.00%ポイント)。教養娯楽用耐久財は同-0.4%と24カ月ぶりの下落(前月：同+0.3%)。寄与度は+0.00%ポイント(前月：+0.00%ポイント)。宿泊料を含む教養娯楽サービスは同+7.5%と8カ月連続の上昇(前月：同+4.5%)。寄与度は+0.38%ポイント(前月：+0.24%ポイント)。

関西消費者物価指数 (前年同月比：2016年1月～23年10月)



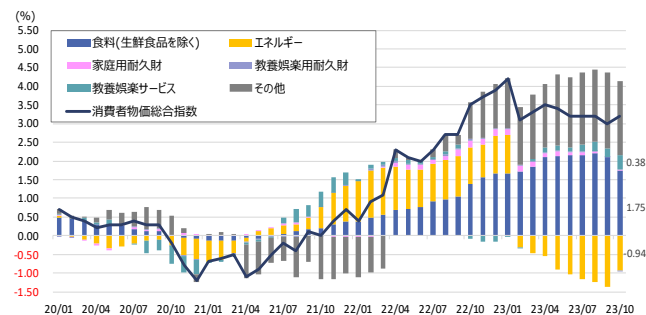
(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

関西消費者物価指数の主な項目 (前年同月比：%)

|     | 食料<br>(生鮮食品を除く) | エネルギー   | 家庭用耐久財   | 教養娯楽用耐久財 | 教養娯楽サービス |
|-----|-----------------|---------|----------|----------|----------|
| 9月  | 9.1             | -16.7   | 0.2      | 0.3      | 4.5      |
| 10月 | 7.6             | -11.5   | 2.1      | -0.4     | 7.5      |
|     | 28カ月連続上昇        | 9カ月連続下落 | 20カ月連続上昇 | 24カ月連続上昇 | 8カ月連続上昇  |

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

関西消費者物価総合指数の寄与度分解 (2020年1月～23年10月)



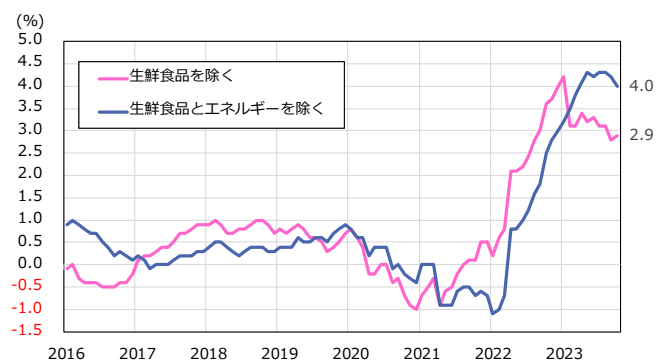
(注) 寄与度は全国のウェイトを用いて推計

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

## <全国>

全国10月の消費者物価総合指数(2020年平均=100)は107.1で、前年同月比+3.3%と26カ月連続の上昇となった(前月：同+3.0%)。生鮮食品を除くコア指数は106.4で同+2.9%と26カ月連続の上昇(前月：同+2.8%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は105.8で同+4.0%と19カ月連続で上昇した(前月：同+4.2%)。

全国消費者物価指数 (前年同月比：2016年1月～23年10月)



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

全国消費者物価指数の主な項目 (前年同月比：%)

|     | 食料<br>(生鮮食品を除く) | エネルギー   | 家庭用耐久財   | 教養娯楽用耐久財 | 教養娯楽サービス |
|-----|-----------------|---------|----------|----------|----------|
| 9月  | 8.8             | -11.7   | 1.5      | 0.2      | 4.5      |
| 10月 | 7.6             | -8.7    | 3.2      | -0.6     | 8.2      |
|     | 28カ月連続上昇        | 9カ月連続下落 | 19カ月連続上昇 | 24カ月連続上昇 | 8カ月連続上昇  |

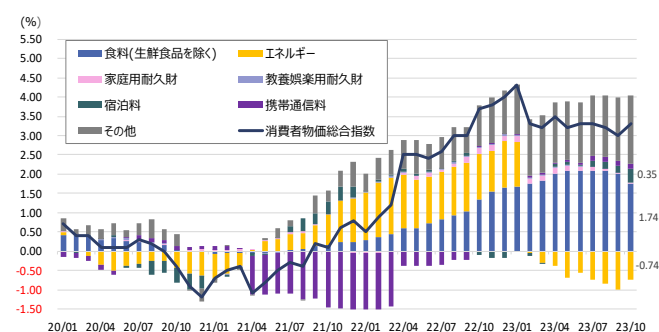
(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」



総合指数の主な項目をみると、エネルギーは前年同月比-8.7%と 9 カ月連続で下落し、前月(同-11.7%)より下落率が縮小した。寄与度は-0.74%ポイント(前月：-1.00%ポイント)。うち、電気代は同-16.8%と 9 カ月連続で下落(前月：同-24.6%)。寄与度は-0.69%ポイント(前月：-1.01%ポイント)。ガス代は同-10.2%と 5 カ月連続の下落となった(前月：同-12.5%)。寄与度は-0.18%ポイント(前月：-0.22%ポイント)。

生鮮食品を除く食料は前年同月比+7.6%と 28 カ月連続の上昇(前月：同+8.8%)。寄与度は+1.74%ポイントとなった(前月：+2.01%ポイント)。家庭用耐久財は同+3.2%と 19 カ月連続の上昇(前月：同+1.5%)。寄与度は+0.05%ポイントとなった(前月：+0.02%ポイント)。教養娯楽用耐久財は同-0.6%と 25 カ月ぶりの下落(前月：同+0.2%)。寄与度は-0.00%ポイント(前月：+0.00%ポイント)。

全国消費者物価総合指数の寄与度分解 (2020年1月～23年10月)



(注) 寄与度は全国のウェイトより推計  
(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

財・サービス分類でみれば、財は前年同月比+4.4%と 30 カ月連続の上昇(前月：同+4.0%)。寄与度は+2.33%ポイントとなった(前月：+2.09%ポイント)。サービスは同+2.1%と 15 カ月連続の上昇(前月：同+2.0%)。寄与度は+1.00%ポイントとなった(前月：+0.96%ポイント)。サービス支出関連では、宿泊料は昨年の全国旅行支援の反動と観光需要の回復により、同+42.6%と 7 カ月連続で上昇した(前月：同+17.9%)。寄与度は+0.35%ポイント(前月：+0.17%ポイント)。携帯電話の通信料は同+10.9%と 13 カ月連続の上

昇(前月：同+10.2%)。寄与度は+0.14%ポイント(前月：+0.13%ポイント)。

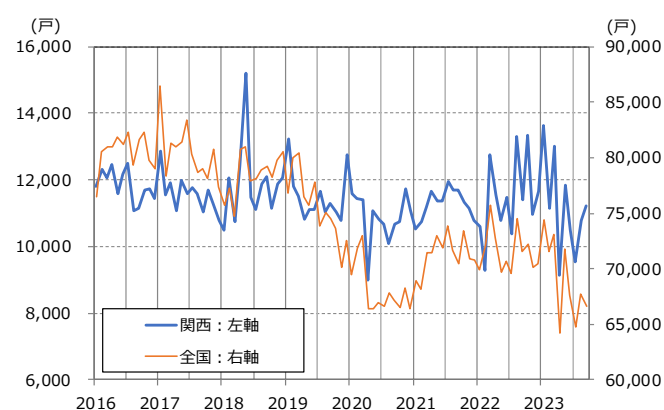
関西 10 月の消費者物価総合指数の上昇率は前月より幾分拡大し、13 カ月連続で 3%以上となっている。去年食料価格の急騰した反動により伸びが鈍化した一方、電気・ガス価格激変緩和支援策の補助金が半減したことで電気代と都市ガス代の下落幅は縮小した。また、昨年の全国旅行支援の影響がなくなったことに加え、観光需要の回復により宿泊料が急上昇した。10 月以降、電気・ガス価格激変緩和措置が延長となったため、引き続き物価の押し下げ要因になるが、下落幅は縮小すると見込まれる。

### (3) 新設住宅着工

#### <関西>

関西 9 月の新設住宅着工戸数(原数値)は 1 万 1,923 戸となり、前年同月比-1.4%と 4 カ月連続で減少した(前月：同-18.8%)。季節調整値(APIR 推計)は 1 万 1,231 戸(年率換算値：13 万 4,768 戸)で、前月比+4.0%と 2 カ月連続の増加となった(前月：同+13.1%)。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値、2016年1月～23年9月)

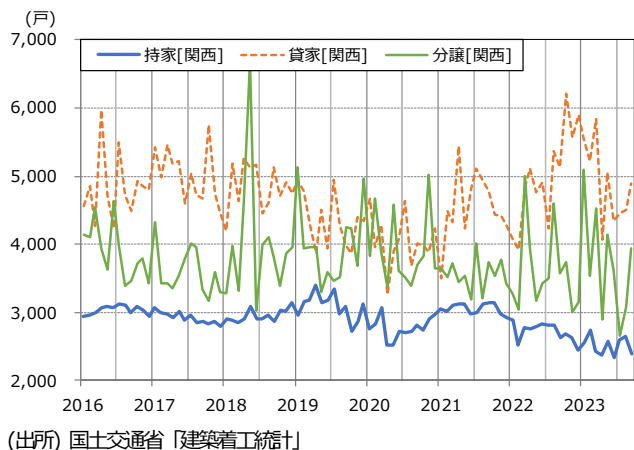


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別に見ると(季節調整値)、持家は 2,389 戸で前月比-9.7%と 3 カ月ぶりに減少した。一方、貸家は 4,889 戸で同+8.4%と 3 カ月連続で増加した。分譲は 3,935 戸で同+27.9%(うち、マンション：同+79.7%)と、2 カ月連続の増加となった。

7-9 月期の新設住宅着工戸数を前期と比較すれば+0.3%と2 四半期ぶりに増加したが、小幅にとどまった(4-6 月期：同-16.8%)。利用関係別では、分譲が同-9.3%と減少したものの、持家が同+4.5%、貸家も同+2.8%とそれぞれ増加した。

利用関係別の推移(季節調整値 2016年1月~23年9月)



#### <全国>

全国 9 月の new 設住宅着工戸数(原数値)は 6 万 8,941 戸となり、前年同月比-6.8%と 4 カ月連続の減少となった(前月：同-9.4%)。季節調整値では 6 万 6,658 戸(年率換算値：79 万 9,896 戸)で、前月比-1.5%と 2 カ月ぶりに減少した(前月：同+4.4%)。

利用関係別に見ると(季節調整値)、持家が 1 万 8,282 戸で前月比-9.3%と 3 カ月ぶりに、分譲は 1 万 9,448 戸で同-2.0%と 2 カ月ぶりにそれぞれ減少した。一方、貸家は 2 万 8,515 戸で同+4.8%と 2 カ月ぶりに増加した。

7-9 月期の新設住宅着工戸数を前期と比較すれば-2.2%と 2 四半期連続で減少した(4-6 月期：同-7.0%)。利用関係別では、持家が同+1.3%と増加したものの、貸家が同-2.6%、分譲も同-4.7%の減少となった。

建設資材価格の高騰と人件費の上昇による住宅価格の値上がりで消費者の購入意欲が低下し、新設着工戸数の減少につながったとみられる。

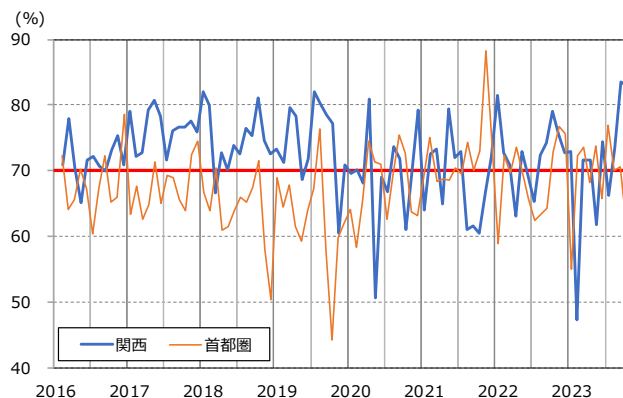
#### (4) マンション市場動向

##### <関西>

関西 10 月の new 築分譲マンション契約率(売却戸数/発売戸数)は 83.0%(季節調整値：APIR 推計)で、前月差-0.6%ポイント下落し、3 カ月ぶりのマイナスとなった(前月：同+10.1%ポイント)。また、好不況の境目である 70%を 3 カ月連続で上回った。契約率を府県別に見ると(原数値)、大阪府下(62.5%)などが低水準となったものの、大阪市部(85.4%)などは高水準だった。

新規発売戸数(原数値)をみると、1,293 戸となり、前年同月比-39.0%と 2 カ月ぶりの減少となった(前月：同+4.6%)。

新築分譲マンション契約率の推移(2016年1月~23年10月)



##### <首都圏>

首都圏 10 月の new 築分譲マンション契約率は 61.7%(季節調整値：APIR 推計)、前月差-8.9%ポイントと 2 カ月ぶりに減少した(前月：同+0.5%ポイント)。また、好不況の境目である 70%を 4 カ月ぶりに下回った。

新規発売戸数(原数値)は 1,486 戸で前年同月比-46.3%と 4 カ月ぶりの減少となった(前月：同+4.1%)。

## (5) 建設工事

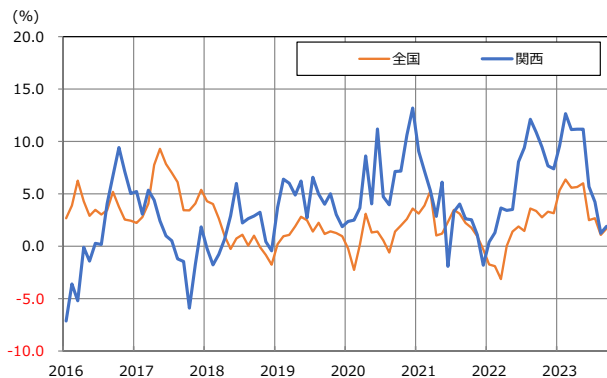
9月の建設工事は前年比増加だが関西、全国ともに前月からわずかな加速にとどまった。うち公共工事の伸びは、関西、全国とも民間工事に比して大きい。

### <関西>

関西9月の建設工事(出来高ベース)は6,860億円で前年同月比+1.9%と21カ月連続の増加。伸びは4カ月ぶりに加速した(前月：同+1.2%)。うち、公共工事は2,507億円となり、同+3.8%と21カ月連続の増加(前月：同+1.6%)。民間工事(建設工事-公共工事)は4,352億円となり、同+0.8%と18カ月連続の増加となった(前月：同+1.0%)。

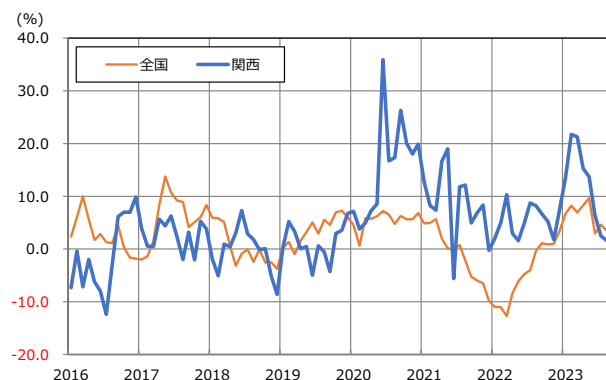
7-9月期の建設工事出来高は1兆9,779億円となり、前年同期比+2.4%と2018年4-6月期以降22四半期連続の増加だが、増加幅は2四半期連続で縮小した(前期：同+9.3%)。うち、同期の公共工事は6,942億円で同+2.7%と16四半期連続の増加(前期：同+11.7%)。民間工事は1兆2,837億円となり、同+2.3%と6四半期連続の増加となった(前期：同+8.0%)。

建設工事出来高の推移(前年同月比:2016年1月~23年9月)



(注) 2023年4月分の公表時点で遡及改定された値を反映している  
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

公共工事出来高の推移(前年同月比:2016年1月~23年9月)



(注) 23年3月以前の地域別の推移は年度報による遡及改定値、4月以降は最新の公共表から作成。  
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

### <全国>

全国9月の建設工事(出来高ベース)は4兆9,553億円で前年同月比+1.7%と18カ月連続の増加となった(前月：同+1.1%)。うち、公共工事は1兆9,391億円となり、同+4.0%と13カ月連続の増加となった(前月：同+3.5%)。民間工事は3兆161億円となり、同+0.2%と2カ月ぶりの増加となった(前月：同-0.3%)。

7-9月期の建設工事出来高は14兆806億円となり、前年同期比+1.8%と6四半期連続の増加(前期：同+4.7%)。うち、同期の公共工事は5兆2,934億円で同+4.0%と4四半期連続の増加(前期：同+6.8%)。民間工事は8兆7,872億円となり、同+0.5%と12四半期連続の増加となった(前期：同+3.6%)。

## (6) 公共工事請負金額

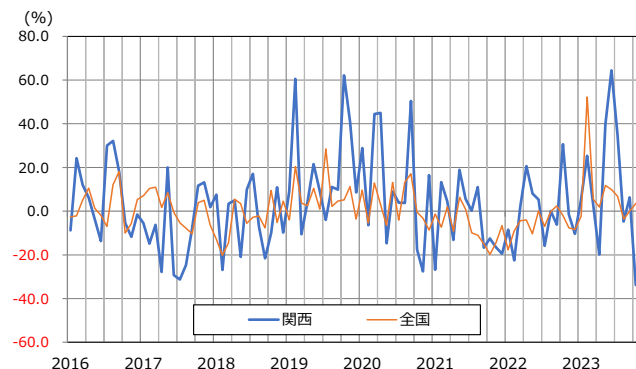
10月の公共工事請負金額は、全国は前年比増加となったが、関西は前年の大幅増加の影響で、減少に転じた。

### <関西>

関西10月の公共工事請負金額は1,182億円、前年同月比-33.8%と、2カ月ぶりの減少となった(前月：同+6.3%)。季節調整値(以下、APIR 推計)では、前月比-19.2%と4カ月連続の減少となった(前月：同-1.8%)。

前年同月比(-33.8%)への寄与度を発注者別にみれば、市区町村(-29.1%ポイント)、独立行政法人等(-8.3%ポイント)、地方公社(-0.1%ポイント)、その他(-0.1%ポイント)が減少に寄与した。一方、国(+2.3%ポイント)、都道府県(+1.5%ポイント)が増加に寄与した。工事場所別に見れば、前年同月に増加した兵庫県下の市町村発注の工事の反動による大幅減少とみられる。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2016年1月~23年10月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

#### <全国>

全国 10 月の公共工事請負金額は 1 兆 933 億円、前年同月比+3.6%と 2 カ月連続の増加であった(前月:同+0.1%)。季節調整値では前月比-4.7%と 2 カ月ぶりの減少となった。

#### 【景況感】

##### (1) 消費者態度指数

関西の消費者態度指数は 3 カ月連続で低下。一方、全国は 3 カ月ぶりの上昇となった。

##### <関西>

関西 10 月の消費者態度指数(季節調整値: APIR 推計)は 35.0 であった(調査期間: 10 月 6~20 日)。前月差-0.1 ポイントと 3 カ月連続で低下した(前月: 同-1.6 ポイント)。10 月を 7-9 月平均と比較すると-2.3 ポイント低下している(7-9 月期: 前期差-0.1 ポイント)。消費者センチメントは悪化の傾向にある。

消費者態度指数の推移(2016年1月~23年10月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

指数構成項目のうち、雇用環境指数(37.3)は前月差-1.8 ポイントと 3 カ月連続の低下。後述する全国に比して関西の方が雇用環境指数の低下幅は大きい。一方、耐久消費財の買い時判断指数(30.1)は同+0.8 ポイント、暮らし向き指数(33.0)は同+0.6 ポイント、収入の増え方指数(39.0)は同+0.1 ポイントと、それぞれ 3 カ月ぶりに上昇した。10 月の各指数構成項目を 7-9 月平均と比較すれば、関西は雇用環境(-7.1 ポイント)、暮らし向き(-1.7 ポイント)、耐久消費財の買い時判断(-1.5 ポイント)、収入の増え方(-0.4 ポイント)がいずれも低下しており、指数は全国に比して弱めの動きとなっている。



なお、同調査で発表される1年後の物価が5%以上「上昇する」と回答した割合は、関西は48.9%で、前月差-2.4%ポイントと3カ月ぶりの低下。一方、2%以上～5%未満「上昇する」と回答した割合は32.7%で、同+1.2%ポイントと2カ月ぶりに上昇した。この傾向は全国と同様であり、物価は高止まりが続くとみられている。

物価の見通しの推移(2016年1月～23年10月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

#### <全国>

全国(季節調整値)は35.7で、前月差+0.5ポイントと3カ月ぶりに上昇した(前月:同-1.0ポイント)。10月を7-9月平均と比較すると-0.5ポイント低下している(7-9月期:前期差+0.3ポイント)。結果、内閣府は10月の基調判断を「改善に向けた動きに足踏みがみられる」と前月から据え置いた。

指数構成項目のうち、暮らし向き指数(33.4)は同+1.4ポイント、収入の増え方指数(39.1)は同+0.4ポイント、耐久消費財の買い時判断指数(29.4)は同+0.4ポイントと、それぞれ3カ月ぶりに上昇した。一方、雇用環境指数(40.7)が前月差-0.4ポイントと3カ月連続で低下した。10月の各指数構成項目を7-9月平均と比較すれば、全国は暮らし向き(+0.5ポイント)、収入の増え方(+0.1ポイント)は上昇した一方、雇用環境(-1.9ポイント)、耐久消費財の買い時判断(-0.6ポイント)が低下した。

#### (2) 景気ウォッチャー指数の動向

10月の現状判断は関西が2カ月連続、全国は3カ月連続

でそれぞれ悪化。先行き判断も関西、全国ともに3カ月連続で悪化した。

#### <関西>

関西10月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値、調査期間:10月25日～31日)は48.3で、前月差-3.5ポイント低下した(前月:同-2.9ポイント)。2カ月連続の悪化となり、景気判断の分岐点である「50」を10カ月ぶりに下回った。例年より気温が高い影響で秋物商材の売上が不振なことに加え、物価の高止まりで小売関連の業種を中心に悪影響がみられた。

先行き判断DI(季節調整値)は46.9で、前月差-1.5ポイントと3カ月連続で低下した(前月:同-4.5ポイント)。円安の進行や原材料価格の高騰を懸念する見方が依然多いことから、先行きの景況感に悪影響した。

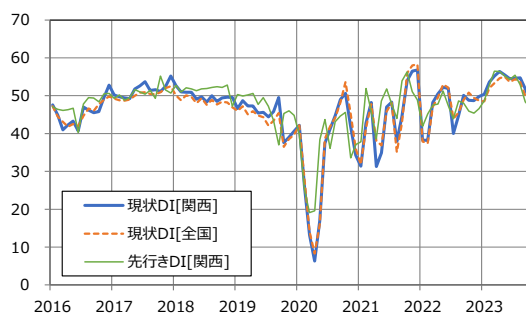
#### <全国>

全国の現状判断DI(季節調整値)は49.5となった。前月差-0.4ポイントと3カ月連続で低下し(前月:同-3.7ポイント)、23年1月(48.5)以来の低い値となった。また、景気判断の分岐点である「50」を2カ月連続で下回っている。

また、先行き判断DI(季節調整値)は48.4で、前月差-1.1ポイントと3カ月連続で低下した(前月:同-1.9ポイント)。

内閣府は全国10月の調査結果を受けて、現状の判断を「景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる」、先行きについては「価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている」と、いずれも前月から据え置いた。

景気ウォッチャー調査の推移(2016年1月～23年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

## 【外需関連】

### (1) 貿易概況

10月の関西の貿易は輸出入ともに前年比減少。輸出は全国が前年比増加したのに比して6カ月連続の減少となった。対中や対米など、輸出の停滞が顕著であった。輸入は全国と同様に2桁の減少が続いている。

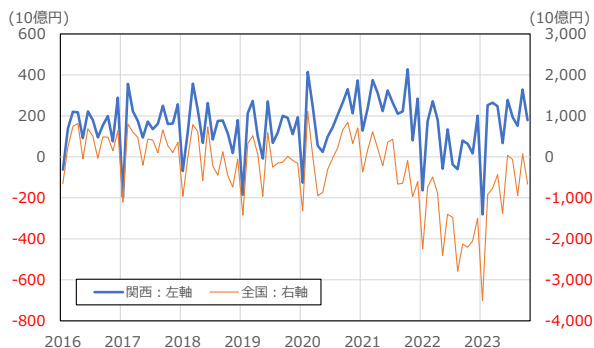
#### <関西>

財務省「貿易概況(速報)」、大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」によれば、関西10月の貿易収支は+1,794億円と9カ月連続の黒字となった(前月：+3,287億円)。黒字幅は前年同月比+179.9%と大幅拡大した。

#### <全国>

全国10月の貿易収支は-6,625億円と、2カ月ぶりの赤字(前月：+721億円)。赤字幅は前年同月比-70.0%と大幅縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2016年1月～23年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (2) 輸出

#### <関西>

関西10月の輸出額は1兆8,264億円で、前年同月比-8.8%と6カ月連続の減少(前月：同-2.2%)。財別にみれば、主に遊戯用具、半導体等電子部品等が減少に寄与した。

#### <全国>

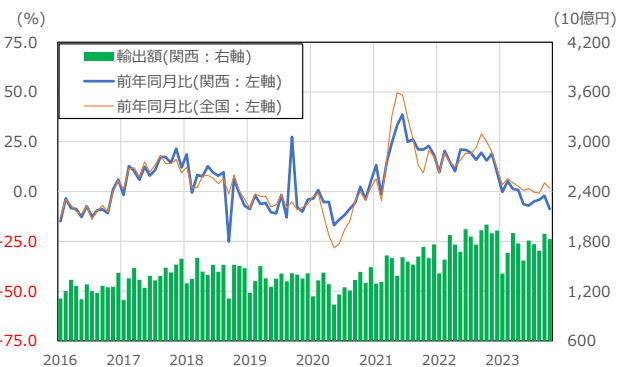
全国10月の輸出額は9兆1,471億円で前年同月比+1.6%と、2カ月連続の増加(前月：同+4.3%)。前月更新

した単月過去最高額に次ぐ額となった。財別にみれば、主に自動車、船舶、建設用・鉱山用機械等が増加に寄与した。

なお、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西10月の実質輸出(速報、季節調整値、2020年平均=100)は101.4で前月比-2.5%と、2カ月ぶりの低下となった(前月：同+2.6%)。全国10月の実質輸出は115.3で同+0.8%となり、2カ月連続で上昇した(前月：同+4.4%)。

関西は23年1-3月期(同-4.4%)から4-6月期(同-0.2%)、7-9月期(同-1.2%)とマイナスが続いている。10月を7-9月平均と比較すると-3.4%となり、輸出の停滞が続いている。一方、全国は4-6月期(同+2.4%)、7-9月期(同+0.6%)とプラスが続いている。また10月は7-9月平均比+1.5%増加した。

関西・全国の輸出の推移(2016年1月～23年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (3) 輸入

#### <関西>

関西10月の輸入額は1兆6,470億円で、前年同月比-15.0%と7カ月連続の減少。マイナス幅は6カ月連続で2桁となっている。財別に見ると、主に原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が減少に寄与した。

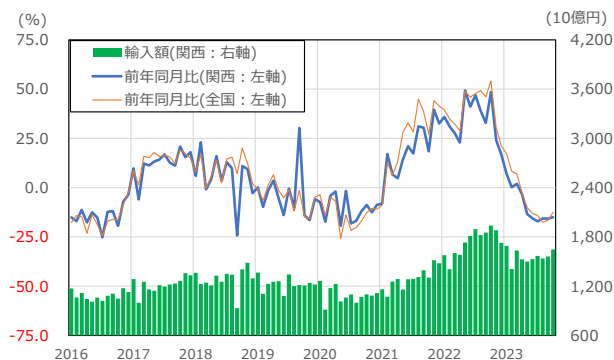
#### <全国>

全国10月の輸入額は9兆8,096億円で、前年同月比-12.5%と7カ月連続の減少(前月：同-16.6%)。財別にみると石炭、液化天然ガス、原油等が減少に寄与した。

また、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西

10月の実質輸入(速報、季節調整値、2020年平均=100)は、101.8で前月比+3.2%と、2カ月連続の上昇(前月：同+1.7%)。全国10月の実質輸入は109.3で同+3.1%となり、2カ月連続で上昇した(前月：同+2.4%)。

関西・全国の輸入の推移(2016年1月~23年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

#### (4) 地域別貿易

##### <対アジア貿易>

関西10月の対アジア貿易収支は+1,718億円と9カ月連続の黒字(前年同月比+8.1%)。対アジア輸出額は同-6.7%と10カ月連続で、輸入額は同-8.9%と6カ月連続で、いずれも減少となった。

対アジア貿易収支

(単位：億円,%)

| 関西     | 2023/10 |       |       | 貿易収支の推移  |
|--------|---------|-------|-------|----------|
|        | 貿易収支    | 前年同月比 | 前年同月差 |          |
| 対アジア   | +1,718  | +8.1  | +128  | 9カ月連続の黒字 |
| 対中国    | -502    | -55.9 | +638  | 8カ月連続の赤字 |
| 対ASEAN | +192    | -40.8 | -132  | 9カ月連続の黒字 |

対アジア輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西     | 2023/10 |       | 前年比の推移    |
|--------|---------|-------|-----------|
|        | 輸出額     | 前年同月比 |           |
| 対アジア   | 11,597  | -6.7  | 10カ月連続の減少 |
| 対中国    | 4,436   | -4.4  | 6カ月連続の減少  |
| 対ASEAN | 3,020   | -8.0  | 7カ月連続の減少  |

対アジア輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西     | 2023/10 |       | 前年比の推移   |
|--------|---------|-------|----------|
|        | 輸入額     | 前年同月比 |          |
| 対アジア   | 9,880   | -8.9  | 6カ月連続の減少 |
| 対中国    | 4,938   | -14.6 | 6カ月連続の減少 |
| 対ASEAN | 2,828   | -4.4  | 7カ月連続の減少 |

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

うち、対中貿易収支は-502億円と8カ月連続の赤字で、前年同月比-55.9%と赤字幅は縮小した。対中輸出額は同-4.4%、輸入額は同-14.6%といずれも6カ月連続の減少。輸出では半導体等電子部品、電気回路等の機器等が、輸入では衣類及び同附属品、事務用機器等がそれぞれ減少に寄与した。

対ASEAN貿易収支は+192億円と9カ月連続の黒字(前年同月比-40.8%)。対ASEAN輸出額は同-8.0%、輸入額は同-4.4%と、いずれも7カ月連続の減少となった。輸出では鉄鋼、原動機等が、輸入では天然ガス及び製造ガス、有機化合物等がそれぞれ減少に寄与した。

##### <対欧米貿易>

対米貿易収支は+1,322億円だが、黒字幅は前年同月比-21.3%と15カ月ぶりに縮小した。対米輸出額は同-11.6%と2カ月ぶりに、輸入額は同-2.5%と5カ月連続で、それぞれ減少となった。輸出では遊戯用具、電池等が、輸入では天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油等がそれぞれ減少に寄与した。

対EU貿易収支は-97億円と5カ月ぶりの赤字(前年同月差-544億円)。対EU輸出額は前年同月比-22.4%と2カ月ぶりに減少し、輸入額は同+3.5%と3カ月連続で増加となった。輸出では遊戯用具、無機化合物等が減少に寄与し、輸入ではたばこ、医薬品等が増加に寄与した。

対欧米貿易収支

(単位：億円,%)

| 関西  | 2023/10 |       |       | 貿易収支の推移   |
|-----|---------|-------|-------|-----------|
|     | 貿易収支    | 前年同月比 | 前年同月差 |           |
| 対米国 | +1,322  | -21.3 | -357  | 88年1月以来黒字 |
| 対EU | -97     | -     | -544  | 5カ月ぶりの赤字  |

対欧米輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西  | 2023/10 |       | 前年比の推移   |
|-----|---------|-------|----------|
|     | 輸出額     | 前年同月比 |          |
| 対米国 | 3,069   | -11.6 | 2カ月ぶりの減少 |
| 対EU | 1,674   | -22.4 | 2カ月ぶりの減少 |

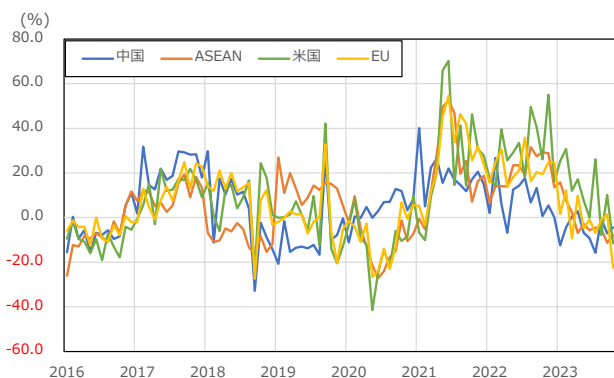
### 対欧米輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

| 関西  | 2023/10 |       | 前年比の推移   |
|-----|---------|-------|----------|
|     | 輸入額     | 前年同月比 |          |
| 対米国 | 1,747   | -2.5  | 5カ月連続の減少 |
| 対EU | 1,772   | +3.5  | 3カ月連続の増加 |

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### 西の地域別輸出推移(前年同月比:2016年1月～23年10月)

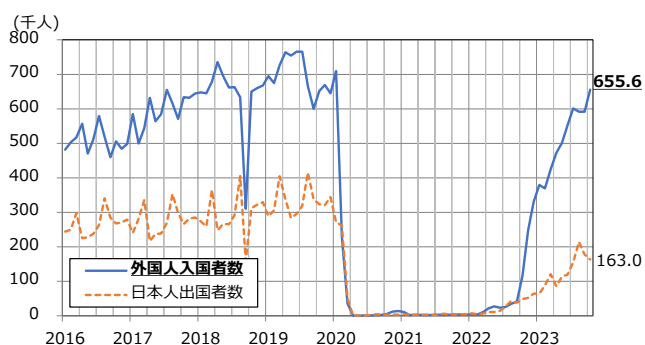


(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (5) 関空の出入国者数

関西 10 月の外国人入国者数は単月で初めてコロナ禍前の水準を上回った。法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、同月の関空経由の外国人入国者数は 65 万 5,571 人であった(前月：59 万 1,610 人)。2019 年同月比では+0.6%となり、前月(同-1.4%)からプラスに転じた。

### 関西訪日外客数と出国日本人数の推移(2016年1月～23年10月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

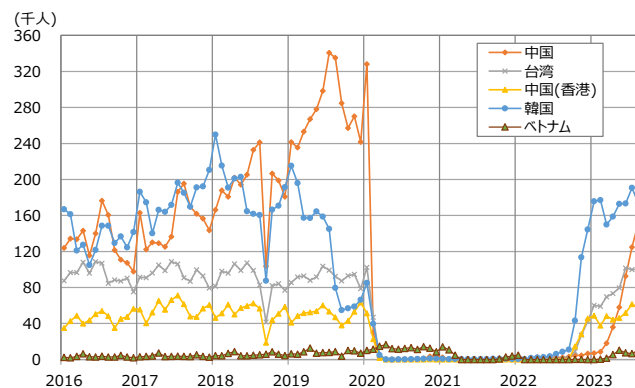
関空が 10 月 25 日に発表した 2023 年冬期(10 月 29 日～3 月 30 日)運航スケジュールによれば、国際便の旅客便は週 1,086 便(19 年同期比-23%)であった。うち香港・マカオ方面は 133 便(同+6%)とコロナ禍前を上回り、東南アジア方面は 168 便(同-15%)とコロナ禍前を回復しつつある。

一方、中国便については 253 便(同-58%)と依然回復のペースは遅い。このため、中国を除くアジア地域からの入国者を中心に引き続き回復が見込まれる一方、中国人客の回復はしばらく時間を要すると考えられる。

また、10 月の日本人出国者数は 16 万 2,984 人であった。2019 年同月比では-49.5%と、前月(同-47.4%)からマイナス幅は幾分拡大した。

8 月の出入国管理統計月報では、関空への訪日外客総数は 59 万 1,857 人で、2019 年同月比-11.1%となった(前月：60 万 1,249 人、同-21.5%)。なお、中国人客を除く総数では 44 万 506 人で、2 カ月連続でコロナ禍前を上回った(同+33.2%)。上位 5 カ国・地域をみれば、韓国が 17 万 3,645 人(同+118.1%)と最多となった。次いで中国が 15 万 1,351 人(同-54.9%)、台湾が 10 万 327 人(同+8.6%)、香港が 5 万 7,539 人(同+22.7%)、ベトナム 1 万 6,629 人(同+25.7%)と続く。

### 上位 5 カ国・地域別訪日外客数(2016年1月～23年8月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

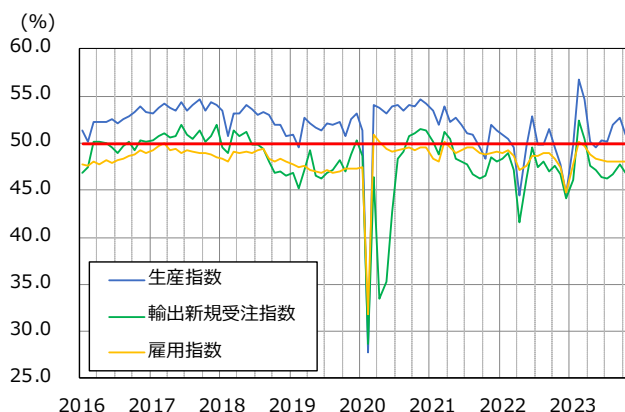


## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.5%で、前月差-0.7%ポイントと5カ月ぶりに低下した(前月:同+0.5%ポイント)。また、景気判断の分岐点である50%を2カ月ぶりに下回り、中国经济回復の兆しに影を落としている。

製造業購買担当者景況指数(2016年1月~23年10月)



(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

指数構成項目の動きは以下の表のとおりである。10月はすべての指数が下落に転じた。生産は5カ月連続で50%を上回っているものの大きく下落。輸出新規受注は7カ月連続、雇用は8カ月連続で50%を下回っている。

製造業購買担当者景況指数(2023年9月~10月)

|              | 2023/09 | 2023/10 | 前月差  | (単位:%,%pt) |
|--------------|---------|---------|------|------------|
| PMI: 製造業     | 50.2    | 49.5    | -0.7 | 5カ月ぶりの下落   |
| サブ指標 (全13項目) |         |         |      |            |
| 生産指数         | 52.7    | 50.9    | -1.8 | 3カ月ぶりの下落   |
| 新規受注指数       | 50.5    | 49.5    | -1.0 | 5カ月ぶりの下落   |
| 輸出新規受注指数     | 47.8    | 46.8    | -1.0 | 3カ月ぶりの下落   |
| 雇用指数         | 48.1    | 48.0    | -0.1 | 2カ月ぶりの下落   |

(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

非製造業 PMI は50.6%で、前月差-1.1%ポイントと2カ月ぶりの下落となった(前月:同+0.7%ポイント)。前月は6カ月ぶりに一旦上昇したものの、10月は再び下落に転じた。

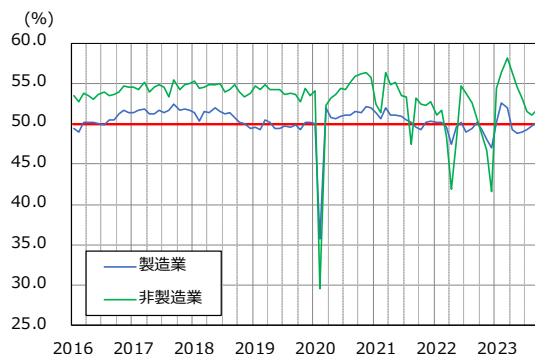
うち、建設業の活動指数は53.5%で前月差-2.7%ポイントと3カ月ぶりの下落(前月:同+2.4%ポイント)。サービス業の活動指数は50.1%で同-0.8%ポイントと2カ月ぶりの下落となった(前月:同+0.4%ポイント)。

非製造業購買担当者景況指数(2023年9月~10月)

|              | 2023/09 | 2023/10 | 前月差  | (単位:%,%pt) |
|--------------|---------|---------|------|------------|
| PMI: 非製造業    | 51.7    | 50.6    | -1.1 | 2カ月ぶりの下落   |
| サブ指標 (全10項目) |         |         |      |            |
| 新規受注指数       | 47.8    | 46.7    | -1.1 | 2カ月ぶりの下落   |
| 雇用指数         | 46.8    | 46.5    | -0.3 | 3カ月ぶりの下落   |
| 非製造業: 建設業    | 56.2    | 53.5    | -2.7 | 3カ月ぶりの下落   |
| 非製造業: サービス業  | 50.9    | 50.1    | -0.8 | 2カ月ぶりの下落   |

(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2016年1月~23年10月)

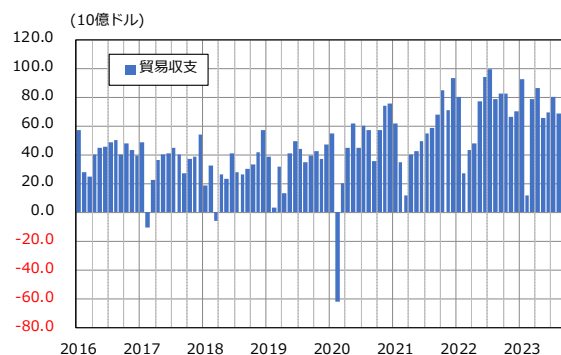


(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

### (2) 貿易動向

10月の貿易収支(速報値:ドル・ベース)は+565.3億ドルと、20年3月以来44カ月連続の黒字となった(前月:+778.3億ドル)。しかし、黒字幅は前年同月比-31.2%と6カ月連続で縮小した(前月:同-5.9%)。輸出額は2,748.3億ドルで、同-6.6%と6カ月連続の減少が続いている(前月:同-6.2%)。一方、輸入額は2,183.0億ドルで、同+3.0%と8カ月ぶりの増加となった(前月:同-6.3%)。

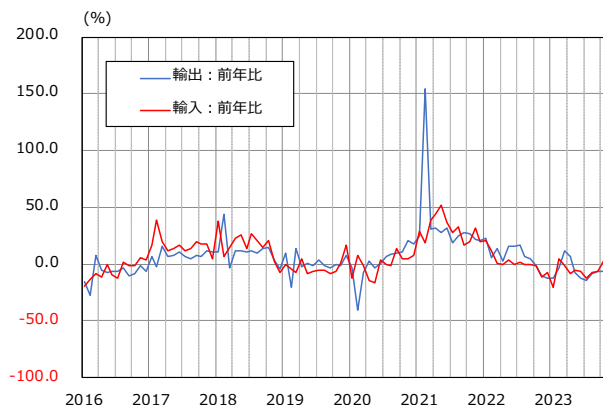
中国の貿易収支の推移(ドル・ベース, 2016年1月~23年10月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース



中国の輸出入額伸び率(ドル・ベース, 2016年1月~23年10月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

地域別に見ると、10月の対日貿易収支は-5.4億ドルで、2カ月ぶりの赤字となった(前月: +900万ドル)。対日輸出額は129.1億ドルとなり、前年同月比-13.0%と6カ月連続の減少。対日輸入額は134.6億ドルとなり、同-8.3%と20カ月連続の減少となった。なお、中国が輸入を中断している日本からの海産物輸入は、8月(2,080万ドル、同-69.8%)から9月には0に転じた。10月は30万ドル(同-99.3%)と低水準にとどまっている。

対韓貿易収支は-24.5億ドルで、6カ月連続の赤字となった(前月: -27.6億ドル)。対韓輸出額は118.2億ドルで前年同月比-17.0%と6カ月連続の減少。対韓輸入額は142.7億ドルとなり、同-8.9%と19カ月連続の減少となった。

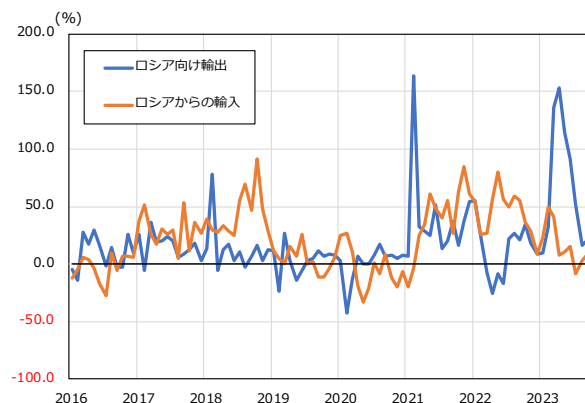
対ASEAN貿易収支は+47.5億ドルで、20年3月以降44カ月連続の黒字(前月: +86.6億ドル)。対ASEAN輸出額は414.8億ドルで前年同月比-15.1%と6カ月連続の減少。対ASEAN輸入額は367.3億ドルで同+10.2%と8カ月ぶりの増加であった。

対米貿易収支は+308.2億ドルで、1993年1月以降黒字が続いているが、黒字幅は前年同月比で15カ月連続の縮小となった。対米輸出額は431.7億ドルで前年同月比-8.2%と15カ月連続の減少。対米輸入額は123.5億ドルで同-3.7%と7カ月連続の減少であった。貿易総額をみれば、22年8月以降15カ月連続で大幅な減少が続いており、米中間の貿易は依然として停滞が続く。

対EU貿易収支は+159.0億ドルで、2020年3月以降44カ月連続の黒字となった(前月: +176.8億ドル)。対EU輸出額は385.8億ドルで前年同月比-12.6%と6カ月連続の減少。対EU輸入額は226.8億ドルで、同+5.8%と2カ月連続の増加であった。

対ロシア貿易収支は-24.2億ドルで、3カ月連続の赤字となった(前月: -18.9億ドル)。対ロシア輸出額は86.9億ドルで前年同月比+17.2%と16カ月連続の増加となった。対ロシア輸入額は111.1億ドルとなり、同+8.6%と3カ月連続の増加となった。

対ロシア輸出入の伸び(ドル・ベース, 2016年1月~23年10月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

総じてみれば、輸出は依然としてマイナス基調が続き、輸出の不振は中国经济回復の足かせとなるであろう。一方、輸入は対ASEANや対EUが好調に推移したため増加に転じたが、増加傾向が続くかは不透明である。

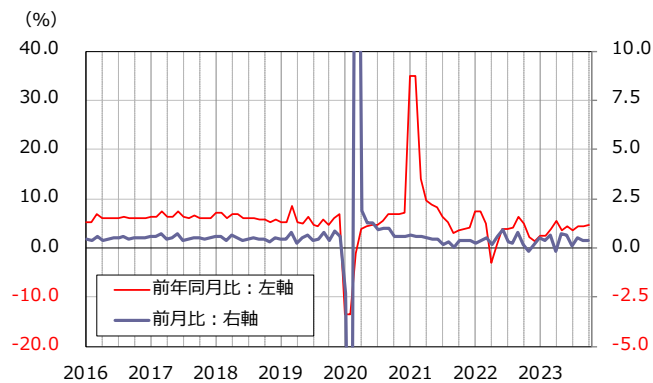
### (3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.39%と6カ月連続の上昇だが、伸びは前月(同+0.36%)からほぼ横ばい。前年同月比では+4.6%の上昇となった(前月: 同+4.5%)。

産業別(主要20産業ベース)では、有色金属延加工業(前年同月比+12.5%)、化学原料・化学製品製造業(同+12.1%)、自動車製造業(同+10.8%)等が増産となった。一方、減産とな

ったのは医薬製造業(同-10.4%)、非金属鉱物製品製造業(同-1.1%)、通用設備製造業(同-0.1%)であった。

工業生産指数(2016年1月~23年10月)



(出所) 中国国家统计局, CEIC データベース

一方、サービス産業生産指数を見ると、10月は前年同月比+7.7%と上昇した。3カ月連続で加速した(前月:同+6.9%)。

サービス産業生産指数(2017年1月~23年10月)



(出所) 中国国家统计局, CEIC データベース

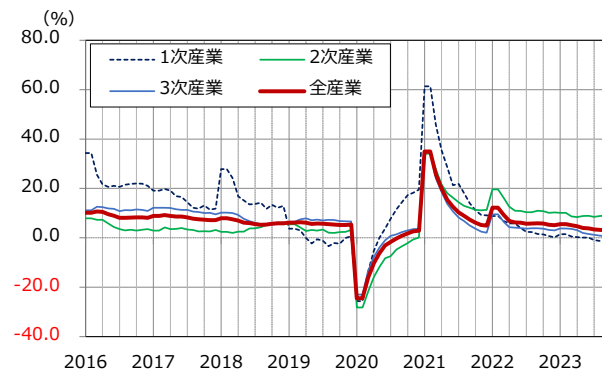
#### (4) 固定資産投資

1-10月期の累積固定資産投資(名目: 41.9兆元)は前年同期比+2.9%増加し、1-9月期(以下、前月)から0.2%ポイント減速した。うち、国有企業の固定資産投資(20.4兆元)は同+6.7%増加だが、8カ月連続の減速(前月:同+7.2%)。一方、民間固定資産投資(21.6兆元)は同-0.5%と6カ月連続の減少となった(前月:同-0.6%)。

産業別に見ると、第1次産業は前年同期比-1.3%の減少(前月:同-1.0%)、第2次産業は同+9.0%の増加、第3次産業は同+0.4%の増加(前月:同+0.7%)となった。第1次産業

(は減少幅が拡大し、第2次産業は横ばい、第3次産業の伸びは8カ月連続で減速となった。

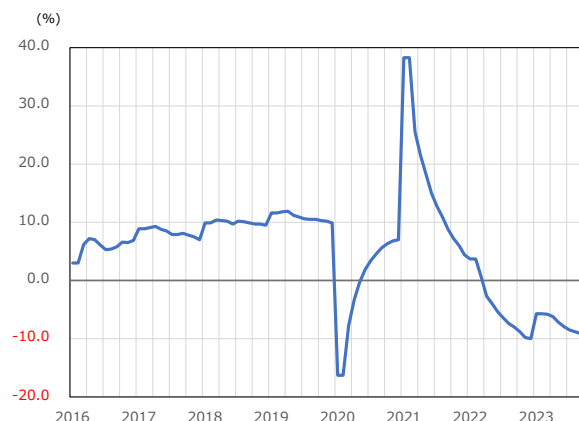
固定資産投資(産業別)累積伸び率(2016年1月~23年10月)



(出所) 中国国家统计局, CEIC データベース

また 1-10 月期の不動産投資をみれば前年同期比-9.3%と減少(前月:同-9.1%)。22年4月以降 19 カ月連続の減少で、マイナス幅は8カ月連続で拡大した。

不動産投資累積伸び率(2016年1月~23年10月)



(出所) 中国国家统计局, CEIC データベース

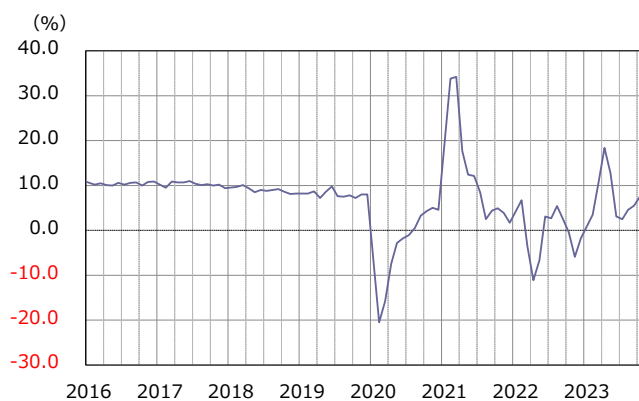
#### (5) 消費

10月の社会消費品小売総額(名目)は4.33兆円で前年同月比+7.6%増加し、伸びは前月より拡大した(9月:同+5.5%)。全体の1割を占める飲食店収入は同+17.1%増加した。伸びは前月(同+13.8%)より拡大し、8カ月連続で2桁の伸びとなっている。また、商品小売は同+6.5%と、伸びは前月より拡大した(前月:同+4.6%)。しかし、住宅販売の不振による影響で、建築・装飾資材(同-4.8%)は依然として低迷している。

なお、電子商取引の小売総額は 1.47 兆円で、前年同月比 +7.8%増加し、伸びは前月(同+10.5%)より小幅縮小した。

10 月は、国慶節(建国記念日)などに伴う大型連休で飲食店収入などサービス消費の好調が続いており、消費の回復が進んでいる。ただし、ゼロコロナ政策が続いていた前年同月に対する反動による影響もあるため、注意が必要である。

社会消費品小売総額(2016 年 1 月~23 年 10 月)



(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

## (6) 物価水準

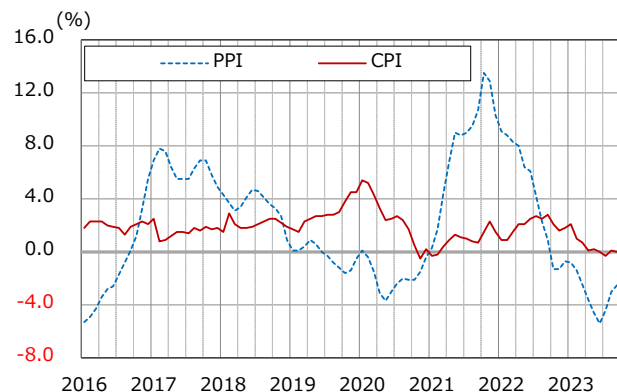
10 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比-0.2%と、3 カ月ぶりのマイナスとなった。うち、食品価格は同-4.0%と 4 カ月連続で低下した。うち、豚肉は同-30.1%と 6 カ月連続で低下した。前年の価格急騰に対する反動で大幅な低下が続いている(前月:同-22.0%)。生鮮野菜は同-3.8%と 4 カ月連続で低下した。一方、ガソリンなど交通燃料は同+1.8%となり、8 カ月ぶりにプラスに転じた。

なお、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は前年同月比+0.6%上昇した。22 年 4 月以降、22 年 6 月と 23 年 1 月を除けば、0%台の低い伸びが続いている。うち、自動車やバイク(同-4.8%)、スマートフォンなど通信機器(同-3.8%)などの耐久消費財価格の下落が続き、下落幅は前月より拡大した。また、サービス価格は同+1.2%と上昇し、伸びは前月から小幅縮小した(前月:同+1.3%)。旅行関連支出の価格は同+11.0%と 4 カ月連続で 2 桁の伸びが続く。

生産者物価指数(PPI)は前年同月比-2.6%と、13 カ月連続のマイナスとなり、下落幅は 4 カ月ぶりに小幅拡大した(前月:同-2.5%)。財別に見ると、鉱工業などの生産工程に投入される製品をまとめた生産財価格は同-3.0%と 13 カ月連続で低下し、下落幅は前月から横ばいとなった。うち、工業用生産財価格は同-3.0%と 15 カ月連続で低下し、下落幅は前月より拡大した(前月:同-2.8%)。

CPI は再び下落した。豚肉価格の大幅な低下に加えて、耐久財価格の持続的な下落も CPI の低下に寄与している。一方、PPI は下落が続いているうえ、縮小傾向だった下落幅が再び拡大した。

消費者物価指数・生産者物価指数 (2016 年 1 月~23 年 10 月)



(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

## (7) 不動産市場

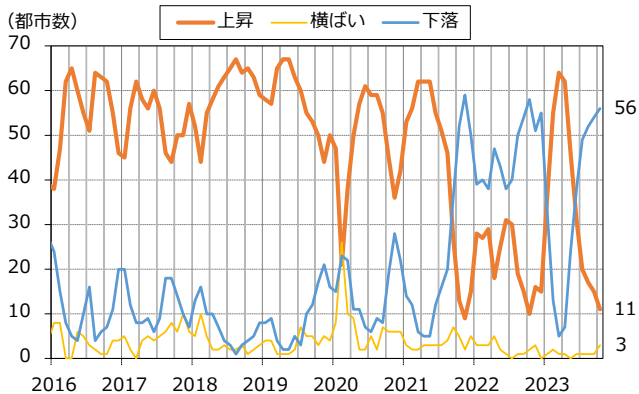
10 月の不動産市場は依然として低迷している。中国主要 70 都市のうち、10 月に新築住宅価格が前月から上昇した都市数は 11 であった。前月から 4 都市減少し、7 カ月連続のマイナス。一方、下落した都市数は 56 で前月から 2 都市増加し、7 カ月連続のプラスとなった。なお、横ばいの都市数は 3 で前月から 2 都市増加し、4 カ月ぶりのプラスとなった。価格が下落した都市数の割合は 80%となった(前月:77%)。

なお、市場の需給をより反映しやすい中古物件ベースでは、価格が下落した都市数は全体の 96%を占めている。

中国政府は昨年 1 月以降住宅ローン金利を断続的に引き下げ、8 月末にさらに住宅購入代金に占める頭金の割合を引き下

げるなど新たな緩和策を発表したが、回復の兆しはいまだに見られない。

主要 70 都市新築住宅価格動向(2016 年 1 月～23 年 10 月)



(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

#### (8) 中国経済レビュー

10 月の中国経済は、生産と消費はともに増加した。ゼロコロナ政策が続いていた前年同月に対する反動による影響もあり、その回復は前月より加速した。

工業生産をみれば前年比増加が続いており、特にサービス産業の生産が好調である。貿易は、輸出は依然としてマイナス基調が続いているものの、輸入は 8 カ月ぶりに前年比増加に転じた。固定資産投資は前年比増加を維持するものの、伸びの鈍化が続く。特に不動産投資は 8 カ月連続でマイナス幅が拡大している。

個人消費は外食など対面型サービスの回復は堅調であるが、住宅販売の不振により建築・装飾資材など住宅関連需要は低迷が続く。前年の豚肉の価格急騰に対する反動で食品価格が低下することに加えて、耐久財消費の不振は、消費者物価指数(CPI)の低下につながった。また、住宅市場の冷え込みが続き、住宅価格が下落した都市数は全体の 8 割に上っている。

なお、10 月の都市部失業率は 5.0%であった。前年同月差では 8 カ月連続で改善しているが、依然高止まっており(前月: 5.0%)、雇用の回復は遅れている。

総じて、雇用回復の遅れと不動産市場の不況には依然として改善が見られないが、生産と消費はともに緩やかに持ち直

している。前年同期はゼロコロナ政策をめぐる混乱が起きたため、経済活動が萎縮した。その反動増による影響もあり、10-12 月期の経済成長率は前期より加速するだろう。

Contact : 野村亮輔・吉田茂一

E-mail: [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)



【主要月次統計 1】

|                                    | 22/11M  | 22/12M  | 23/1M   | 23/2M   | 23/3M   | 23/4M   | 23/5M   | 23/6M   | 23/7M   | 23/8M   | 23/9M   | 23/10M  |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| <b>生産</b>                          |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]鉱工業生産指数(季節調整値、15年=100)         | 94.2    | 94.4    | 88.6    | 90.5    | 92.1    | 91.6    | 89.6    | 91.7    | 89.7    | 93.0    | 93.5    | NA      |
| 前月比(%)                             | -1.5    | 0.2     | -6.1    | 2.1     | 1.8     | -0.5    | -2.2    | 2.3     | -2.1    | 3.8     | 0.5     | NA      |
| 鉱工業出荷指数(季節調整値、15年=100)             | 93.6    | 93.6    | 88.8    | 91.0    | 92.8    | 90.6    | 89.8    | 90.9    | 89.9    | 93.6    | 92.9    | NA      |
| 前月比(%)                             | -5.4    | 0.0     | -5.1    | 2.5     | 2.0     | -2.4    | -0.8    | 1.2     | -0.9    | 4.2     | -0.7    | NA      |
| 鉱工業在庫指数(季節調整値、15年=100)             | 107.3   | 105.4   | 103.5   | 103.1   | 103.7   | 104.6   | 104.2   | 103.8   | 103.5   | 103.1   | 101.3   | NA      |
| 前月比(%)                             | 0.8     | -1.8    | -1.8    | -0.4    | 0.6     | 0.9     | -0.3    | -0.4    | -0.5    | -0.3    | -1.7    | NA      |
| [全国]鉱工業生産指数(季節調整値、20年=100)         | 105.5   | 104.9   | 100.8   | 104.5   | 104.8   | 105.5   | 103.2   | 105.7   | 103.8   | 103.1   | 103.6   | NA      |
| 前月比(%)                             | 0.0     | -0.6    | -3.9    | 3.7     | 0.3     | 0.7     | -2.2    | 2.4     | -1.8    | -0.7    | 0.5     | NA      |
| 鉱工業出荷指数(季節調整値、20年=100)             | 104.0   | 102.8   | 99.5    | 103.8   | 104.7   | 104.5   | 103.3   | 105.0   | 103.1   | 102.8   | 103.4   | NA      |
| 前月比(%)                             | -0.4    | -1.2    | -3.2    | 4.3     | 0.9     | -0.2    | -1.1    | 1.6     | -1.8    | -0.3    | 0.6     | NA      |
| 鉱工業在庫指数(季節調整値、20年=100)             | 103.2   | 103.1   | 102.4   | 103.4   | 103.8   | 103.7   | 105.6   | 105.8   | 106.4   | 105.0   | 103.6   | NA      |
| 前月比(%)                             | 0.0     | -0.1    | -0.7    | 1.0     | 0.4     | -0.1    | 1.8     | 0.2     | 0.6     | -1.3    | -1.3    | NA      |
| <b>労働</b>                          |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]完全失業率(季節調整値、%)                 | 3.0     | 2.8     | 2.7     | 3.0     | 3.1     | 2.9     | 2.7     | 2.4     | 3.0     | 3.2     | 3.1     | NA      |
| (原数値、%)                            | 2.7     | 2.6     | 2.6     | 2.9     | 3.1     | 3.1     | 2.8     | 2.6     | 3.2     | 3.3     | 3.1     | NA      |
| [全国]完全失業率(季節調整値、%)                 | 2.5     | 2.5     | 2.4     | 2.6     | 2.8     | 2.6     | 2.6     | 2.5     | 2.7     | 2.7     | 2.6     | NA      |
| [関西]有効求人倍率(季節調整値)                  | 1.23    | 1.23    | 1.22    | 1.21    | 1.20    | 1.21    | 1.21    | 1.19    | 1.18    | 1.19    | 1.19    | NA      |
| [全国]有効求人倍率(季節調整値)                  | 1.35    | 1.36    | 1.35    | 1.34    | 1.32    | 1.32    | 1.31    | 1.30    | 1.29    | 1.29    | 1.29    | NA      |
| [関西]新規求人倍率(季節調整値)                  | 2.31    | 2.28    | 2.38    | 2.32    | 2.30    | 2.29    | 2.30    | 2.30    | 2.35    | 2.29    | 2.23    | NA      |
| [全国]新規求人倍率(季節調整値)                  | 2.38    | 2.38    | 2.38    | 2.32    | 2.29    | 2.23    | 2.36    | 2.32    | 2.27    | 2.33    | 2.22    | NA      |
| [関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%)          | 4.3     | 3.3     | 0.0     | 0.4     | 2.8     | 2.5     | 3.5     | 2.2     | 1.0     | 0.1     | NA      | NA      |
| [関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%)          | -0.1    | -1.3    | -5.0    | -3.3    | -1.1    | -1.6    | -0.4    | -1.5    | -2.7    | -3.6    | NA      | NA      |
| [全国]現金給与総額(前年同月比%)                 | 1.9     | 4.1     | 0.8     | 0.8     | 1.3     | 0.8     | 2.9     | 2.3     | 1.1     | 0.8     | 1.2     | NA      |
| <b>小売</b>                          |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]大型小売販売額(10億円)                  | 321.0   | 404.8   | 319.4   | 286.4   | 317.5   | 308.2   | 314.9   | 317.1   | 342.5   | 323.2   | 314.6   | NA      |
| 前年同月比(%)、全店ベース                     | 4.7     | 5.4     | 7.2     | 7.9     | 6.2     | 6.6     | 6.3     | 6.4     | 7.8     | 9.2     | 9.3     | NA      |
| [全国]大型小売販売額(10億円)                  | 1,759.0 | 2,226.6 | 1,768.1 | 1,581.9 | 1,767.4 | 1,709.5 | 1,743.7 | 1,746.5 | 1,874.1 | 1,785.8 | 1,708.4 | NA      |
| 前年同月比(%)、全店ベース                     | 3.0     | 4.1     | 5.5     | 5.2     | 3.6     | 5.3     | 3.7     | 4.4     | 5.9     | 6.5     | 4.8     | NA      |
| <b>物価</b>                          |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]消費者物価指数 総合(原数値、20年=100)        | 103.7   | 103.8   | 104.4   | 103.7   | 104.2   | 104.8   | 104.9   | 104.7   | 105.2   | 105.5   | 105.8   | 106.7   |
| 前年同月比(%)                           | 3.7     | 3.9     | 4.2     | 3.1     | 3.3     | 3.5     | 3.4     | 3.2     | 3.2     | 3.2     | 3.0     | 3.2     |
| [関西]「生鮮食品を除く総合(原数値、20年=100)        | 103.5   | 103.8   | 104.1   | 103.4   | 103.9   | 104.6   | 104.6   | 104.5   | 105.0   | 105.3   | 105.3   | 106.0   |
| 前年同月比(%)                           | 3.5     | 3.8     | 4.1     | 2.9     | 3.2     | 3.4     | 3.3     | 3.1     | 3.0     | 3.1     | 2.8     | 2.8     |
| [関西]「生鮮食品及びエネルギーを除く総合(原数値、20年=100) | 102.2   | 102.4   | 102.6   | 102.9   | 103.5   | 104.3   | 104.7   | 104.7   | 105.3   | 105.7   | 105.7   | 106.0   |
| 前年同月比(%)                           | 2.9     | 3.1     | 3.4     | 3.5     | 3.9     | 4.3     | 4.6     | 4.5     | 4.5     | 4.7     | 4.5     | 4.0     |
| <b>住宅・建設</b>                       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]新設住宅着工(原数値、戸数)                 | 11,279  | 10,986  | 11,245  | 10,673  | 13,445  | 10,360  | 10,649  | 10,705  | 10,541  | 10,305  | 11,923  | NA      |
| 前年同月比(%)                           | -1.5    | 7.7     | 28.8    | 20.3    | 2.0     | -20.9   | 9.9     | -8.4    | -7.9    | -18.8   | -1.4    | NA      |
| [全国]新設住宅着工(原数値、戸数)                 | 72,372  | 67,249  | 63,604  | 64,426  | 73,693  | 67,250  | 69,561  | 71,015  | 68,151  | 70,399  | 68,941  | NA      |
| 前年同月比(%)                           | -1.4    | -1.7    | 6.6     | -0.3    | -3.2    | -11.9   | 3.5     | -4.8    | -6.7    | -9.4    | -6.8    | NA      |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)               | 10,965  | 11,648  | 13,645  | 11,164  | 13,009  | 9,130   | 11,839  | 10,508  | 9,547   | 10,800  | 11,231  | NA      |
| 前年同月比(%)                           | -17.9   | 6.2     | 17.1    | -18.2   | 16.5    | -29.8   | 29.7    | -11.2   | -9.2    | 13.1    | 4.0     | NA      |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)               | 69,869  | 70,486  | 74,397  | 71,598  | 73,062  | 64,219  | 71,824  | 67,600  | 64,800  | 67,678  | 66,658  | NA      |
| 前年同月比(%)                           | -3.7    | 0.5     | 5.5     | -3.8    | 2.0     | -12.1   | 11.8    | -5.9    | -4.1    | 4.4     | -1.5    | NA      |
| [関西]マンション契約率(季節調整値)                | 75.6    | 72.8    | 72.9    | 47.4    | 71.6    | 71.6    | 61.8    | 74.5    | 66.3    | 73.5    | 83.6    | 83.0    |
| 原数値                                | 74.3    | 74.8    | 69.3    | 51.6    | 73.7    | 67.8    | 61.0    | 75.6    | 66.7    | 78.2    | 80.5    | 78.0    |
| [首都圏]マンション契約率(季節調整値)               | 76.7    | 75.6    | 55.0    | 72.3    | 73.6    | 68.1    | 73.7    | 65.8    | 77.0    | 70.1    | 70.6    | 61.7    |
| 原数値                                | 69.4    | 74.8    | 54.6    | 73.3    | 79.5    | 73.7    | 74.3    | 67.8    | 74.8    | 68.6    | 67.7    | 60.9    |
| [関西]建設工事(総合、10億円)                  | 664.1   | 679.1   | 688.5   | 694.2   | 684.6   | 631.4   | 620.9   | 628.9   | 637.6   | 654.3   | 686.0   | NA      |
| 前年同月比(%)                           | 6.5     | 6.8     | 9.1     | 12.4    | 10.9    | 11.2    | 11.2    | 5.7     | 4.2     | 1.2     | 1.9     | NA      |
| [全国]建設工事(総合、10億円)                  | 4,819.1 | 4,846.6 | 4,778.6 | 4,685.2 | 4,717.5 | 4,288.3 | 4,172.2 | 4,330.9 | 4,468.4 | 4,656.9 | 4,955.3 | NA      |
| 前年同月比(%)                           | 2.5     | 2.5     | 4.7     | 5.8     | 5.0     | 5.7     | 6.0     | 2.5     | 2.7     | 1.1     | 1.7     | NA      |
| [全国]建設工事(公共工事、10億円)                | 2,063.6 | 2,115.0 | 2,108.9 | 2,047.3 | 2,101.2 | 1,507.7 | 1,427.5 | 1,511.0 | 1,612.5 | 1,741.7 | 1,939.1 | NA      |
| 前年同月比(%)                           | 1.0     | 3.4     | 6.8     | 8.4     | 6.8     | 8.3     | 9.6     | 3.0     | 4.6     | 3.5     | 4.0     | NA      |
| [関西]公共工事前払保証額(10億円)                | 79.3    | 80.3    | 64.9    | 82.3    | 173.8   | 268.5   | 216.7   | 293.3   | 159.8   | 116.2   | 150.0   | 118.2   |
| 前年同月比(%)                           | -1.6    | -10.4   | 5.3     | 25.3    | 3.0     | -19.8   | 39.7    | 64.4    | 34.8    | -4.8    | 6.3     | -33.8   |
| [全国]公共工事前払保証額(10億円)                | 696.1   | 628.3   | 508.8   | 897.8   | 1,530.1 | 2,048.0 | 1,416.3 | 1,815.1 | 1,380.2 | 1,114.7 | 1,299.5 | 1,093.3 |
| 前年同月比(%)                           | -7.6    | -8.4    | -2.3    | 52.2    | 5.5     | 1.9     | 11.8    | 9.9     | 6.8     | -3.6    | 0.1     | 3.6     |
| <b>消費者心理</b>                       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]消費者態度指数(季節調整値)                 | 28.2    | 29.4    | 30.2    | 31.5    | 35.0    | 36.8    | 38.3    | 37.1    | 37.9    | 36.7    | 35.1    | 35.0    |
| 暮らし向き(季節調整値)                       | 26.0    | 26.9    | 27.2    | 28.9    | 30.4    | 33.5    | 35.1    | 35.1    | 35.2    | 34.3    | 32.4    | 33.0    |
| 収入の増え方(季節調整値)                      | 33.8    | 34.0    | 35.1    | 35.7    | 38.5    | 38.6    | 39.4    | 39.0    | 39.5    | 39.3    | 38.9    | 39.0    |
| 雇用環境(季節調整値)                        | 31.6    | 33.9    | 36.2    | 38.1    | 42.1    | 44.9    | 48.9    | 43.6    | 45.2    | 43.5    | 39.1    | 37.3    |
| 耐久消費財の買い判断(季節調整値)                  | 21.1    | 23.0    | 22.1    | 23.0    | 27.6    | 30.2    | 31.5    | 31.0    | 31.9    | 31.3    | 29.3    | 30.1    |
| [全国]消費者態度指数(季節調整値)                 | 29.7    | 31.0    | 31.3    | 31.3    | 33.9    | 35.4    | 36.0    | 36.2    | 37.1    | 36.2    | 35.2    | 35.7    |
| <b>景況感</b>                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)         | 48.7    | 49.8    | 50.4    | 53.6    | 55.2    | 56.4    | 55.5    | 54.5    | 54.6    | 54.7    | 51.8    | 48.3    |
| [関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)          | 45.4    | 46.6    | 48.6    | 52.7    | 56.5    | 56.4    | 55.2    | 54.3    | 55.4    | 52.9    | 48.4    | 46.9    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)         | 49.4    | 48.7    | 48.5    | 52.0    | 53.3    | 54.6    | 55.0    | 53.6    | 54.4    | 53.6    | 49.9    | 49.5    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)          | 46.3    | 46.8    | 49.3    | 50.8    | 54.1    | 55.7    | 54.4    | 52.8    | 54.1    | 51.4    | 49.5    | 48.4    |

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

NAはデータ未公表であることを示す

【主要月次統計 2】

|                        | 22/11M   | 22/12M   | 23/1M    | 23/2M    | 23/3M    | 23/4M    | 23/5M    | 23/6M    | 23/7M    | 23/8M    | 23/9M    | 23/10M   |
|------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 国 際 貿 易                |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| [関西]貿易収支(10億円)         | 19.6     | 206.3    | -280.2   | 252.7    | 264.0    | 248.2    | 66.6     | 277.6    | 193.1    | 142.0    | 328.7    | 179.4    |
| 前年同月比(%)               | -75.6    | -27.5    | 72.3     | 45.3     | -2.8     | 37.5     | -217.2   | 106.1    | -662.6   | -334.2   | 312.1    | 179.9    |
| 対アジア(10億円)             | 126.2    | 276.5    | -138.6   | 297.3    | 209.3    | 211.5    | 171.2    | 216.2    | 193.4    | 146.3    | 170.0    | 171.8    |
| 前年同月比(%)               | -36.3    | -13.6    | 963.2    | -6.5     | -34.0    | -39.5    | -12.0    | -15.5    | -1.2     | 32.1     | -6.9     | 8.1      |
| 対中国(10億円)              | -115.8   | -16.3    | -268.9   | 27.6     | -69.7    | -70.7    | -61.6    | -34.2    | -50.4    | -54.2    | -81.7    | -50.2    |
| 前年同月比(%)               | 172.9    | -        | 27.5     | -34.8    | 225.6    | 500.1    | -30.6    | -59.8    | -20.7    | -53.3    | 0.6      | -55.9    |
| 対ASEAN(10億円)           | 19.5     | 30.3     | -22.0    | 41.4     | 48.1     | 67.3     | 64.8     | 60.7     | 51.0     | 17.0     | 21.6     | 19.2     |
| 前年同月比(%)               | 269.0    | -18.3    | 32.6     | 69.8     | -33.9    | 0.9      | 34.4     | -0.4     | 121.3    | 103.6    | -21.1    | -40.8    |
| 対米国(10億円)              | 159.8    | 139.3    | 110.6    | 160.7    | 181.1    | 177.0    | 122.5    | 177.4    | 157.2    | 147.3    | 209.0    | 132.2    |
| 前年同月比(%)               | 89.5     | 4.5      | 45.0     | 36.4     | 21.2     | 15.9     | 2.1      | 1.1      | 117.6    | 12.1     | 35.8     | -21.3    |
| 対EU(10億円)              | 19.1     | 52.5     | 2.3      | 26.1     | 24.9     | 35.3     | -1.0     | 10.3     | 17.2     | -10.2    | 37.8     | -9.7     |
| 前年同月比(%)               | -        | 1,001.2  | -        | -        | -        | -        | -98.7    | -        | 7.1      | -        | 6.8      | -        |
| [関西]輸出(10億円)           | 1,898.1  | 1,930.1  | 1,410.3  | 1,660.4  | 1,898.5  | 1,774.3  | 1,567.2  | 1,808.0  | 1,763.7  | 1,688.2  | 1,890.0  | 1,826.4  |
| 前年同月比(%)               | 18.9     | 9.5      | -0.2     | 5.1      | 1.3      | 0.8      | -6.4     | -7.1     | -5.0     | -4.1     | -2.2     | -8.8     |
| 対アジア(10億円)             | 1,188.0  | 1,231.3  | 867.5    | 1,023.5  | 1,165.0  | 1,062.9  | 995.9    | 1,118.8  | 1,095.8  | 1,060.3  | 1,147.8  | 1,159.7  |
| 前年同月比(%)               | 10.0     | 4.0      | -7.4     | -2.9     | -3.1     | -7.0     | -10.1    | -10.4    | -11.5    | -3.5     | -6.5     | -6.7     |
| 対中国(10億円)              | 457.3    | 471.4    | 296.0    | 377.2    | 457.3    | 403.1    | 381.8    | 431.1    | 412.7    | 426.0    | 438.2    | 443.6    |
| 前年同月比(%)               | 5.4      | 0.2      | -12.4    | -4.4     | 0.3      | 2.8      | -6.8     | -9.2     | -15.8    | -0.6     | -7.1     | -4.4     |
| 対ASEAN(10億円)           | 314.7    | 303.9    | 253.6    | 275.3    | 312.9    | 279.3    | 277.6    | 300.5    | 299.2    | 266.9    | 288.7    | 302.0    |
| 前年同月比(%)               | 28.8     | 13.6     | 15.9     | 7.6      | 2.4      | -6.9     | -2.8     | -5.7     | -4.5     | -4.9     | -11.3    | -8.0     |
| 対米国(10億円)              | 325.5    | 284.3    | 237.6    | 276.6    | 323.1    | 317.8    | 263.9    | 315.6    | 304.1    | 277.7    | 336.3    | 306.9    |
| 前年同月比(%)               | 55.0     | 16.2     | 24.9     | 30.7     | 12.1     | 17.2     | 7.7      | -0.0     | 26.0     | -7.9     | 10.1     | -11.6    |
| 対EU(10億円)              | 196.1    | 220.7    | 148.9    | 182.9    | 186.9    | 199.6    | 157.8    | 188.0    | 188.8    | 176.7    | 204.8    | 167.4    |
| 前年同月比(%)               | 24.6     | 25.0     | 1.6      | 12.2     | -9.3     | 9.8      | -4.9     | -0.9     | -6.9     | -1.0     | 1.4      | -22.4    |
| 実質輸出(日本銀行:2020=100)    | 112.4    | 108.9    | 105.9    | 107.2    | 106.2    | 108.2    | 104.1    | 106.4    | 109.5    | 101.4    | 104.0    | 101.4    |
| 前月比(%)                 | -0.3     | -3.1     | -2.7     | 1.2      | -1.0     | 1.9      | -3.7     | 2.2      | 2.9      | -7.4     | 2.6      | -2.5     |
| [関西]輸入(10億円)           | 1,878.5  | 1,723.8  | 1,690.4  | 1,407.7  | 1,634.5  | 1,526.0  | 1,500.7  | 1,530.4  | 1,570.6  | 1,546.2  | 1,561.3  | 1,647.0  |
| 前年同月比(%)               | 23.9     | 16.6     | 7.2      | 0.2      | 2.0      | -3.4     | -13.3    | -15.5    | -17.0    | -15.1    | -15.7    | -15.0    |
| 対アジア(10億円)             | 1,061.8  | 954.9    | 1,006.1  | 726.2    | 955.7    | 851.4    | 824.7    | 902.5    | 902.4    | 914.0    | 977.8    | 988.0    |
| 前年同月比(%)               | 20.5     | 10.5     | 6.0      | -1.3     | 8.0      | 7.3      | -9.7     | -9.1     | -13.4    | -7.5     | -6.4     | -8.9     |
| 対中国(10億円)              | 573.1    | 487.6    | 564.8    | 349.6    | 527.0    | 473.8    | 443.4    | 465.3    | 463.1    | 480.2    | 519.9    | 493.8    |
| 前年同月比(%)               | 20.3     | 4.4      | 2.9      | -0.8     | 10.4     | 17.3     | -11.0    | -16.9    | -16.4    | -11.8    | -5.9     | -14.6    |
| 対ASEAN(10億円)           | 295.3    | 273.7    | 275.6    | 233.9    | 264.8    | 212.0    | 212.8    | 239.8    | 248.1    | 249.9    | 267.0    | 282.8    |
| 前年同月比(%)               | 23.5     | 18.7     | 17.1     | 1.1      | 13.7     | -9.1     | -10.4    | -7.0     | -14.5    | -8.3     | -10.4    | -4.4     |
| 対米国(10億円)              | 165.7    | 145.0    | 127.0    | 115.9    | 142.0    | 140.8    | 141.5    | 138.2    | 146.9    | 130.4    | 127.4    | 174.7    |
| 前年同月比(%)               | 31.9     | 30.3     | 11.4     | 23.6     | 2.3      | 18.9     | 13.1     | -1.4     | -13.1    | -23.3    | -16.0    | -2.5     |
| 対EU(10億円)              | 177.0    | 168.2    | 146.6    | 156.7    | 162.0    | 164.4    | 158.8    | 177.7    | 171.6    | 186.9    | 167.0    | 177.2    |
| 前年同月比(%)               | 7.5      | -2.1     | -28.3    | -21.6    | -29.5    | -32.0    | -34.7    | -21.4    | -8.1     | 6.9      | 0.3      | 3.5      |
| 実質輸入(日本銀行:2020=100)    | 108.9    | 105.2    | 102.8    | 97.9     | 102.2    | 103.1    | 95.9     | 98.0     | 101.0    | 97.8     | 98.6     | 101.8    |
| 前月比(%)                 | -5.1     | -3.6     | -2.5     | -5.6     | 4.2      | 0.0      | -7.2     | 2.5      | 3.1      | -3.2     | 1.7      | 3.2      |
| 原油及び粗油 (10億円)          | 133.2    | 121.0    | 73.0     | 83.3     | 85.6     | 65.1     | 71.2     | 51.6     | 75.6     | 59.0     | 36.3     | 30.0     |
| 前年同月比(%)               | 105.0    | 134.9    | 28.7     | 13.4     | 49.9     | -40.8    | -32.4    | -55.2    | -43.4    | -56.3    | -74.0    | -78.7    |
| 原油及び粗油 (1000KL)        | 1,426.0  | 1,471.0  | 996.7    | 1,159.3  | 1,192.4  | 940.1    | 960.1    | 672.6    | 1,044.6  | 796.5    | 475.6    | 376.2    |
| 前年同月比(%)               | 31.4     | 67.6     | -0.1     | -1.8     | 42.4     | -31.7    | -21.8    | -44.8    | -21.6    | -43.4    | -66.4    | -74.1    |
| 原油価格(円/KL)             | 93,421.8 | 82,243.8 | 73,237.0 | 71,865.0 | 71,827.1 | 69,292.9 | 74,179.3 | 76,769.7 | 72,402.2 | 74,102.7 | 76,213.6 | 79,632.5 |
| 前年同月比(%)               | 56.0     | 40.2     | 28.8     | 15.5     | 5.2      | -13.4    | -13.5    | -18.8    | -27.8    | -22.8    | -22.6    | -17.9    |
| 為替レート(月中平均:円/ドル)       | 142.4    | 134.9    | 130.2    | 132.7    | 133.9    | 133.3    | 137.4    | 141.2    | 141.2    | 144.8    | 147.7    | 149.5    |
| 前月比(%)                 | -3.1     | -5.3     | -3.5     | 1.9      | 0.9      | -0.4     | 3.0      | 2.8      | 0.0      | 2.5      | 2.0      | 1.3      |
| [関西国際空港]外国人入国者数(人)     | 247,090  | 331,249  | 379,298  | 369,191  | 425,327  | 471,895  | 501,210  | 552,492  | 601,246  | 591,846  | 591,610  | 655,571  |
| 日本人出国者数(人)             | 51,940   | 64,060   | 63,437   | 88,078   | 120,211  | 85,653   | 113,563  | 119,404  | 154,563  | 214,337  | 177,471  | 162,984  |
| 中 国 モ ニ タ ー            |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| 購買担当者景況指数(PMI): 製造業(%) | 48.0     | 47.0     | 50.1     | 52.6     | 51.9     | 49.2     | 48.8     | 49.0     | 49.3     | 49.7     | 50.2     | 49.5     |
| 非製造業(%)                | 46.7     | 41.6     | 54.4     | 56.3     | 58.2     | 56.4     | 54.5     | 53.2     | 51.5     | 51.0     | 51.7     | 50.6     |
| 輸出額(100万ドル)            | 291,132  | 297,895  | NA       | 209,088  | 304,126  | 289,803  | 282,171  | 284,215  | 281,493  | 284,763  | 299,130  | 274,827  |
| 輸入額(100万ドル)            | 225,086  | 227,968  | NA       | 197,159  | 225,879  | 203,545  | 216,656  | 214,548  | 201,271  | 216,503  | 221,298  | 218,299  |
| 貿易総額(100万ドル)           | 516,218  | 525,862  | NA       | 406,247  | 530,005  | 493,347  | 498,827  | 498,763  | 482,765  | 501,266  | 520,428  | 493,126  |
| 貿易収支(100万ドル)           | 66,045   | 69,927   | NA       | 11,928   | 78,246   | 86,258   | 65,516   | 69,667   | 80,222   | 68,259   | 77,831   | 56,528   |
| 工業生産: 前月比(%)           | -0.13    | 0.19     | NA       | 0.36     | 0.65     | -0.19    | 0.70     | 0.68     | 0.08     | 0.50     | 0.36     | 0.39     |
| 前年同月比(%)               | 2.20     | 1.30     | NA       | 2.40     | 3.90     | 5.60     | 3.50     | 4.40     | 3.70     | 4.50     | 4.50     | 4.60     |
| 名目社会消費品小売総額: 前年同月比(%)  | -5.9     | -1.8     | NA       | 3.5      | 10.6     | 18.4     | 12.7     | 3.1      | 2.5      | 4.6      | 5.5      | 7.6      |
| 消費者物価指数: 前年同月比(%)      | 1.6      | 1.8      | 2.1      | 1.0      | 0.7      | 0.1      | 0.2      | 0.0      | -0.3     | 0.1      | 0.0      | -0.2     |
| コアコア消費者物価指数: 前年同月比(%)  | 0.6      | 0.7      | 1.0      | 0.6      | 0.7      | 0.7      | 0.6      | 0.4      | 0.8      | 0.8      | 0.8      | 0.6      |
| 生産者物価指数: 前年同月比(%)      | -1.3     | -0.7     | -0.8     | -1.4     | -2.5     | -3.6     | -4.6     | -5.4     | -4.4     | -3.0     | -2.5     | -2.6     |

注:貿易収支の前年同月比の計算で比較の符号が異なる場合は“-”表記とした  
NAはデータ未公表であることを示す

## 【Release Calendar】

| Monday                                         | Tuesday                                                                                                                                          | Wednesday                                                                                                                                                    | Thursday                                                                                              | Friday                                                                           |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 23-Oct<br>実質輸出入<br>(9月)                        | 24-Oct<br>毎月勤労統計調査<br>(8月:確報)<br>百貨店免税売上<br>(9月)<br>出入国管理統計<br>(8月)                                                                              | 25-Oct                                                                                                                                                       | 26-Oct                                                                                                | 27-Oct<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(8月:確報)<br>全国貿易統計<br>(8月:確報)<br>全国貿易統計<br>(9月:確・速報) |
| 30-Oct                                         | 31-Oct<br>全国鉱工業指数<br>(9月:速報)<br>労働力調査<br>(9月)<br>一般職業紹介状況<br>(9月)<br>商業動態統計<br>(9月:速報)<br>建築着工統計調査<br>(9月)<br>消費動向調査<br>(10月)<br>中国 PMI<br>(10月) | 1-Nov<br>近畿圏貿易概況<br>(8月:確報)<br>近畿圏貿易概況<br>(9月:確・速報)                                                                                                          | 2-Nov                                                                                                 | 3-Nov<br>文化の日                                                                    |
| 6-Nov                                          | 7-Nov<br>毎月勤労統計調査<br>(9月:速報)<br>中国貿易統計<br>(10月)                                                                                                  | 8-Nov<br>百貨店・スーパー販売<br>状況(9月:速報)                                                                                                                             | 9-Nov<br>景気ウォッチャー調査<br>(10月)<br>中国 CPI<br>(10月)                                                       | 10-Nov                                                                           |
| 13-Nov                                         | 14-Nov                                                                                                                                           | 15-Nov<br>全国鉱工業指数<br>(9月:確報)<br>商業動態統計<br>(9月:確報)<br>公共工事前払保証統計<br>(10月)<br>出入国管理統計<br>(10月:速報)<br>中国工業生産<br>(10月)<br>中国固定資産投資<br>(10月)<br>中国消費小売総額<br>(10月) | 16-Nov<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(9月:速報)<br>近畿圏貿易概況<br>(10月:速報)<br>全国貿易統計<br>(10月:速報)<br>中国不動産市場<br>(10月) | 17-Nov<br>建設総合統計<br>(9月)                                                         |
| 20-Nov<br>マンション市場動向<br>(10月)<br>実質輸出入<br>(10月) | 21-Nov<br>毎月勤労統計調査<br>(9月:確報)                                                                                                                    | 22-Nov                                                                                                                                                       | 23-Nov<br>勤労感謝の日                                                                                      | 24-Nov<br>百貨店免税売上<br>(10月)<br>全国 CPI<br>(10月)<br>出入国管理統計<br>(9月)                 |

\*印は発表予定日が未定。